

システム管理
情報

SA88-6922-00
(英文原典：33L3902)



システム管理 情報

SA88-6922-00
(英文原典 : 33L3902)

お願い

本書に記載されている情報および製品をご使用になる前に、必ず本サーバー・ライブラリーの“特記事項および安全情報”をお読みください。

第 11 版 (1999 年 8 月)

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

原 典： 33L3902
Advanced System Management
Information
発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.9

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

目次

第1章 はじめに	1
第2章 デバイス・ドライバーのインストール	3
必要なデバイス・ドライバー	3
デバイス・ドライバーのインストール手順	3
第3章 Netfinity Manager での Netfinity システム管理プロセッサの使用	7
Netfinity システム管理プロセッサの始動	7
シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理	8
構成情報	9
構成設定	9
モデム設定	15
ネットワーク設定	19
リモート・アラート設定	21
イベント・ログ	24
システム稼働パラメーター	25
システム電源制御	26
リモート POST コンソール	28
Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードの更新	29
第4章 Netfinity Manager を使用しないシステム管理ハードウェアの構成	31
アラート設定	32
ダイヤルイン/アウト設定	32
一般設定	33
モデム設定	33
ネットワーク設定	34
第5章 Netfinity Manager を使用しない場合のシステム管理プロセッサの使用	35
Netfinity システム管理プロセッサへの直接接続の確立	35
Netfinity システム管理プロセッサのメニュー	36
「System Power」メニューの選択項目	37
「Boot」メニューの選択項目	38
リモート・ビデオ・モードを使用した POST の監視とアクセス	40
付録A. 動的接続マネージャー	43
モデム構成	44
リモート・アクセスを使用可能にする	45
動的接続マネージャー・エントリーの作成	47
リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)	50
リモート・システムへのアクセス (システム管理相互接続リンク)	51
初期化文字列のガイドライン	52
付録B. システム管理ネットワークのセットアップと使用	55
システム管理相互接続のアラート転送	56
システム管理相互接続のサンプル構成	57

索引 61

第1章 はじめに

このセクションでは、Netfinity® Manager™ のシステム管理サービスを始動して使用するための手順を説明します。このサービスを使用すると、IBM® Netfinity システム管理プロセッサを操作、構成、および管理できます。このセクションには、Netfinity システム管理プロセッサが必要とする、構成ユーティリティとデバイス・ドライバーをインストールする方法が詳しく説明されています。このセクションは、Netfinity システム管理プロセッサをインストールして、Netfinity Manager、または Client Services for Netfinity Manager とともに使用するユーザーを対象としています。

このセクションは、Netfinity Manager を使用せずに Netfinity システム管理プロセッサを使用する方法も説明しています。

重要

- システム管理サービスは、Netfinity Manager と一緒にインストールされた場合に、Netfinity システム管理プロセッサのもつさまざまな機能を提供します。Netfinity Manager は、本サーバーに付属しています。Netfinity Manager をインストールしなければ、Netfinity システム管理プロセッサの拡張機能の多くを利用できなくなります。Netfinity Manager のインストール方法については、本サーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”を参照してください。
- 本サーバー・ライブラリーのこのセクションは、お使いのサーバーに組み込まれている Netfinity システム管理プロセッサに対して、システム管理サービスを使用する方法を説明します。このサービスを使用して、次のものをはじめとする、他のシステム管理ハードウェアを管理することもできます。
 - PC Server システム管理アダプター・オプション
 - Netfinity システム管理 PCI アダプター (Netfinity 7000 M10 サーバーに組み込まれており、Netfinity システム管理プロセッサを組み込んだサーバー用のオプションとして入手可能)

システム管理サービスの提供する機能は、管理するシステム管理ハードウェアによって異なります。Netfinity システム管理プロセッサ以外のシステム管理ハードウェアに対してシステム管理サービスを使用する方法の詳細については、オプションに付属の資料、またはサーバーに付属しているサーバー・ライブラリーを参照してください。

システム管理サービスを使用すると、システム管理イベント (POST、ローダー、オペレーティング・システムのタイムアウト、限界温度、電圧、悪用に関するアラートなど) を構成できます。これらのイベントのいずれかが発生した場合に、次の 4 つの方法で Netfinity アラートを自動転送するように、システム管理サービスを構成できます。

- モデムを使用して別の Netfinity システムに
- 標準の数字ポケベルに
- 英数字ポケベルに
- ネットワーク接続を使用する別の Netfinity システムに (システム管理サービスを Netfinity システム管理 PCI アダプターとともに使用する場合のみ)

このサービスにより、お使いのシステムのモデムを使用して外部にダイヤルし、リモート・システムのシステム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサに直接アクセスして、これらを制御できます。リモート・システムに Netfinity システム管理 PCI アダプターが取り付けられていて、アダプターが伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル (TCP/IP) ネットワークに接続している場合は、動的接続マネージャー・サービス (Netfinity Manager とシステム管理サービスのインストール時にインストールされます) を使用して、Netfinity Manager システムから Netfinity システム管理 PCI アダプターによって TCP/IP リンクをオープンできます。さらに、Netfinity システム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサがシステム管理 (ASM) 相互接続ネットワークに接続している場合、あるいはリモートの Netfinity システム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサ (システムのモデムまたは TCP/IP 接続を使用して接続) が ASM 相互接続ネットワークに接続している場合は、この接続を使用して、ASM 相互接続ネットワークに接続した他のシステムのシステム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサにアクセスし、これらを管理できます。詳細については、43ページの付録A、『動的接続マネージャー』を参照してください。



図 1. Netfinity システム管理プロセッサ

第2章 デバイス・ドライバーのインストール

この章では、Netfinity システム管理プロセッサ用のデバイス・ドライバーをインストールする方法を説明します。

注:

1. Netfinity Manager をインストールする場合は、Netfinity Manager をインストールする前に必要なデバイス・ドライバーをインストールする必要があります。
2. サポートされるオペレーティング・システムのリストについては、WWW の <http://www.pc.ibm.com/us/netfinity/> をご覧ください。
3. ディスケットから Windows NT をインストールする (ServerGuide を使用) 場合は、ServerGuide Diskette Factory CD を使用して、システム管理デバイス・ドライバー・ディスクケットも作成する必要があります。このディスクケットは、オペレーティング・システムのインストール処理中に使用します。

必要なデバイス・ドライバー

次のデバイス・ドライバーが必要です。

- OS/2 オペレーティング・システムの場合: IBMSPO.DLL と IBMSPO.SYS
- Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合: IBMSPW.DLL と IBMSPW.SYS
- Novell NetWare オペレーティング・システムの場合: IBMSPN.NLM

デバイス・ドライバーのインストール手順

Netfinity システム管理プロセッサを正しく機能させるために必要なデバイス・ドライバーは、次の 2 つの方法のどちらかでインストールできます。

- ServerGuide Netfinity Applications CD を使用する (OS/2 と Windows NT のみ)。
ServerGuide Netfinity Applications CD を使用してデバイス・ドライバーをインストールするには、CD に提供されている説明に従ってください。
- ServerGuide Diskette Factory CD を使用して、デバイス・ドライバーのインストールに必要なディスクケットを作成する (OS/2、Windows NT、NetWare、または UNIXWare)。

Netfinity システム管理デバイス・ドライバー・ディスクケットを作成する必要があります。

注: このディスクケットには、Netfinity システム管理プロセッサ・ハードウェアを組み込んだ Netfinity サーバーでサポートされる、すべてのオペレーティング・システム用のデバイス・ドライバー情報が収録されます。

ServerGuide Diskette Factory CD に提供されている説明に従って、ディスクケットを作成します。

OS/2 または Windows NT をインストールする場合は、ServerGuide Netfinity Applications CD を使用してデバイス・ドライバーをインストールできます。デバイス・ドライバーのインストールを完了するために、指定された追加手順を実行する必要はありません。

注: NetWare または UNIXWare をインストールする場合は、ServerGuide Diskette Factory CD を使用して作成したデバイス・ドライバー・ディスクットを使用する必要があります。

Diskette Factory を使用してディスクットを作成し、デバイス・ドライバーを手作業でインストールする場合は、次の手順を実行してデバイス・ドライバーのインストールを完了します。

1. プライマリー・ディスクット・ドライブに、*Netfinity Advanced System Management Device Driver Diskette* というラベルの付いたディスクットを挿入します。

注: 詳細については、ディスクットにある README ファイルを参照してください。

2. 各オペレーティング・システムのウィンドウまたは全画面を開きます。
3. 次のコマンドを入力して、**Enter** を押します。
 - OS/2 オペレーティング・システムの場合: `a:\os2\setup`
 - Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合: `a:\nt\setup`
 - Novell NetWare オペレーティング・システムの場合: `load a:\netware\setup`
4. デバイス・ドライバーが配置される場所 (パスとディレクトリー) を示すプロンプトが表示され、ファイルを別の場所に配置するかどうか尋ねられます。
 - 表示されたディレクトリーにファイルを配置する場合は、**Enter** を押します。
 - ファイルを別のディレクトリーに配置する場合は、目的のディレクトリー名を入力して **Enter** を押します。プロンプトが表示されたら、必ず有効なディレクトリー名を使用し、完全なパスを含めて入力します。
5. お使いのオペレーティング・システム用に必要なデバイス・ドライバー (ファイル) が、ハード・ディスクのステップ 4 で選択したディレクトリーにコピーされます。
 - OS/2 オペレーティング・システムの場合は、`CONFIG.SYS` が更新されます。
 - Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合は、レジストリーが更新され、デバイス・ドライバーがすべて自動的にロードされます。デバイス・ドライバーは即時に実行されます。
 - Novell NetWare オペレーティング・システムの場合は、`AUTOEXEC.NCF` ファイルが更新されます。
6. ディスクット・ドライブからディスクットを取り出します。
7. Microsoft Windows NT オペレーティング・システムの場合は、これでデバイス・ドライバーのインストール手順は完了です。

8. OS/2 オペレーティング・システムまたは Novell NetWare オペレーティング・システムの場合は、次の手順を実行します。
 - a. オペレーティング・システムのシャットダウン手順を実行します。方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。
 - b. Ctrl+Alt+Del を押して、サーバーを再始動します。デバイス・ドライバーが自動的にロードされます。デバイス・ドライバーは即時に実行されます。これでデバイス・ドライバーのインストール手順は完了です。

注:

1. お使いのサーバー用の最新デバイス・ドライバーを入手するには、WWW の <http://www.ibm.com/support/> にアクセスして、サーバーにファイルをダウンロードします。
 2. IBM Update Connector (ServerGuide Netfinity Applications CD に収録) をインストールすると、システムのデバイス・ドライバーと BIOS を自動更新できるようになります。Update Connector をインストールするには、本サーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の“アプリケーション・プログラム”を参照してください。
- 注: Update Connector が提供する更新サポートは、サーバー上で稼働しているオペレーティング・システムによって異なります。詳細については、本サーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の“アプリケーション・プログラム”を参照してください。

第3章 Netfinity Manager での Netfinity システム管理プロセッサの使用

この章では、サーバーに組み込まれている Netfinity システム管理プロセッサについて説明します。この章では、Netfinity システム管理プロセッサを始動する方法と、Netfinity システム管理プロセッサを使用して構成、モデム、ネットワーク、および自動ダイヤルアウトの設定値を変更する方法も説明します。

Netfinity システム管理プロセッサの始動

Netfinity システム管理プロセッサを始動するには、「Netfinity Service Manager」ウィンドウの「システム管理」アイコンをダブルクリックします。続いて、「システム管理」ウィンドウにある選択項目のいずれかをダブルクリックして、必要な機能または構成情報にアクセスします。

- Netfinity システム管理プロセッサに関する詳細情報を表示するには、「**Configuration Information**」をダブルクリックします。表示される情報には、ランダム・アクセス・メモリー (RAM) マイクロコード、読み取り専用メモリー (ROM) マイクロコード、デバイス・ドライバ情報などがあります。サーバーの Netfinity システム管理プロセッサを管理している場合は、詳細なシステム情報にもアクセスできます。構成情報の詳細については、9ページの『構成情報』を参照してください。
- Netfinity システム管理プロセッサのさまざまな機能を構成するには、「**Configuration Settings**」をダブルクリックします。構成できる機能には、システム識別データ、ダイヤルイン・セキュリティー設定、Netfinity システム管理プロセッサが報告する時刻と日付、クロック、タイムアウト、遅延の値、拡張モデム設定などがあります。構成設定の詳細については、9ページの『構成設定』を参照してください。
- Netfinity システム管理プロセッサのアラート転送機能を構成するには、「**Remote Alert Settings**」をダブルクリックします。リモート・アラート設定の詳細については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。
- システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログの内容を表示するには、「**Event Log**」をダブルクリックします。発生したリモート・アクセスの試行とダイヤルアウト・イベントに関する情報は、すべてシステム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに記録されます。イベント・ログの詳細については、24ページの『イベント・ログ』を参照してください。
- Netfinity システム管理プロセッサが監視している、さまざまなシステム・コンポーネントの現行の値または状況を表示するには、「**Operational Parameters**」をダブルクリックします。動作パラメーターの詳細については、25ページの『システム稼働パラメーター』を参照してください。
- システムの電源をオフにしたり、システムを再始動したり、システムの電源をオンにしたりするように Netfinity システム管理プロセッサに指示するには、「**System Power Control**」をダブルクリックします。システム電源制御の詳細については、26ページの『システム電源制御』を参照してください。
- Netfinity システム管理プロセッサを使用して、サポートされる Netfinity システム管理プロセッサを備えたりリモート・システムの POST 時に生成されるテキスト出力を、リモート側から監視、記録、および再生するには、「**Remote POST**

Console」をダブルクリックします。リモート POST の使用について詳しくは、28ページの『リモート POST コンソール』を参照してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新するには、「Options」プルダウン・メニューの「Update Microcode...」を選択し、続いて「System Management Subsystem」を選択します。マイクロコードの更新について詳しくは、29ページの『Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードの更新』を参照してください。

シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理

システムのもデム、TCP/IP、または ASM 相互接続のネットワーク接続を使用して、リモート・システム上のシステム管理アダプターまたはプロセッサを管理するには、動的接続マネージャーを使用して、次のいずれかを行います。

- リモート・システムとのシリアル接続を確立する
- リモート・サーバーに取り付けられた Netfinity システム管理 PCI アダプターとの、TCP/IP リンクまたは ASM 相互接続リンクを確立する
- リモート・サーバーに取り付けられたシステム管理プロセッサとの ASM 相互接続リンクを確立する

その後、システム管理サービスを開始します。動的接続マネージャーを使用して、別のシステムへのヌル・モデム接続を確立することもできます。さらに、動的接続マネージャーを使用して、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続または TCP/IP 接続を確立してから、その Netfinity システム管理 PCI アダプターを「パススルー」し、ASM 相互接続ネットワークを使用してリモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続されたシステム管理アダプター、またはシステム管理プロセッサにリモート側からアクセスして、これらを管理できます。動的接続マネージャーについて詳しくは、43ページの付録A、『動的接続マネージャー』を参照してください。

注:

1. 動的接続制御エントリーを作成する際には、「Netfinity Dynamic Connection Manager」ウィンドウの「System Management Processor」チェック・ボックスに必ずチェック・マークを付けてください。このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていないと、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターとの接続が失敗します。ヌル・モデム接続と TCP/IP リンクのエントリーの場合は、このボックスにチェック・マークを付ける必要はありません。
2. ネットワーク接続を介した TCP/IP リンクを使用できるのは、システム管理と動的接続マネージャーを使用して、ネットワークに接続した Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスした場合だけです。
3. ASM 相互接続は、次のいずれかの場合にだけ使用できます。
 - システム管理と動的接続マネージャーを使用して、ユーザー自身のシステムに取り付けられた Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接アクセスしている。
 - システム管理と動的接続マネージャーを使用して、ユーザーのシステム管理アダプター、またはシステム管理プロセッサが接続しているのと同じ ASM 相互接続ネットワークに接続した、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスしている。

- 最初に、ASM 相互接続ネットワーク上にある他のシステム管理アダプター、またはシステム管理プロセッサに接続された、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル接続、ヌル・モデム接続、または TCP/IP リンクを確立した。
4. 動的接続マネージャーを使用して、システム管理サービスが使用する動的接続エントリーを構成する際には、必ずシステム管理プロセッサ、またはシステム管理アダプターにアクセスするためのログイン ID とパスワードを入力します。リモート・システム上の Netfinity Manager サービスにアクセスするためのユーザー ID とパスワードではありません。
 5. 動的接続マネージャーのエントリーを作成して、リモート・システムのシステム管理プロセッサ、またはシステム管理アダプターとのヌル・モデム接続を確立する際には、ポート通信速度の値 (動的接続マネージャー・サービスを使用して構成した) が、ターゲット・システムの通信速度の値 (システム管理サービスを使用して構成した) と一致するように設定されていることを確認してください。ポート通信速度と通信速度の値が一致していないと、接続は失敗します。
 6. モデム経由で接続している場合に、シリアル接続が切断されると、動的接続マネージャーはキャリアの損失を検出して、ウィンドウに「No carrier detected」と表示します。続いて動的接続マネージャーは、シリアル接続の再確立を自動的に試みます。

構成情報

「Configuration Information」ウィンドウ (図2 を参照) には、RAM マイクロコード、ROM マイクロコード、デバイス・ドライバー情報など、Netfinity システム管理プロセッサに関する詳細情報が表示されます。

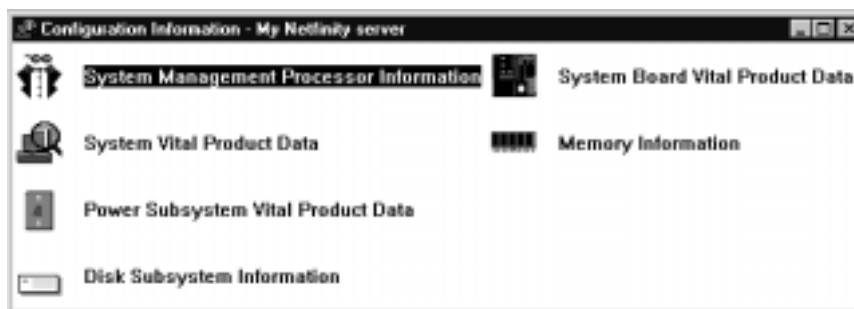


図 2. 「Configuration Information」ウィンドウ

構成設定

Netfinity システム管理プロセッサのさまざまな機能を構成するには、「Configuration Settings」ウィンドウ (10ページの図3 を参照) の入力フィールドを使用します。構成できる機能には、システム識別データ、ダイヤルイン・セキュリティ設定、Netfinity システム管理プロセッサが報告する時刻と日付、クロック、タイムアウト、遅延の値、拡張モデム設定、ネットワーク設定などがあります。

「Configuration Settings」ウィンドウには、次のグループやフィールドがあります。

- System Identification

- Dial-in settings
- System Management Processor Clock
- POST timeout
- Loader timeout
- O/S timeout
- Power off delay

このウィンドウには、「Modem」ボタンと「Network」ボタンもあります。「Modem」をクリックすると、「Modem Settings」ウィンドウが開きます (15ページの『モデム設定』を参照)。「Network」をクリックすると、「Network Settings」ウィンドウが開きます (19ページの『ネットワーク設定』を参照)。

注: ネットワーク設定の構成は、Netfinity システム管理 PCI アダプター上でだけサポートされます。Netfinity システム管理プロセッサを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターのアクセスや管理を行っていない場合は、「Network」ボタンは使用できません。

「System Identification」グループ

「System Identification」グループには、Netfinity システム管理プロセッサを装備したシステムを識別するためのフィールドが 2 つあります。

フィールド	説明
Name	このフィールドを使用して、システムの名前、システム・ユーザーの名前、または連絡先の名前を指定します。この情報は、転送される Netfinity アラートと、英数字ボケベルに送信されるメッセージに含まれるので、アラートを生成したシステムの識別に役立ちます。
Number	このフィールドを使用して、特定のシリアル番号または識別番号によってシステムを識別したり、システムにダイヤルするための電話番号を記録したり、連絡先の電話番号を指定したりします。この情報は、転送される Netfinity アラートと、英数字ボケベルに送信されるメッセージに含まれるので、アラートを生成したシステムの識別に役立ちます。

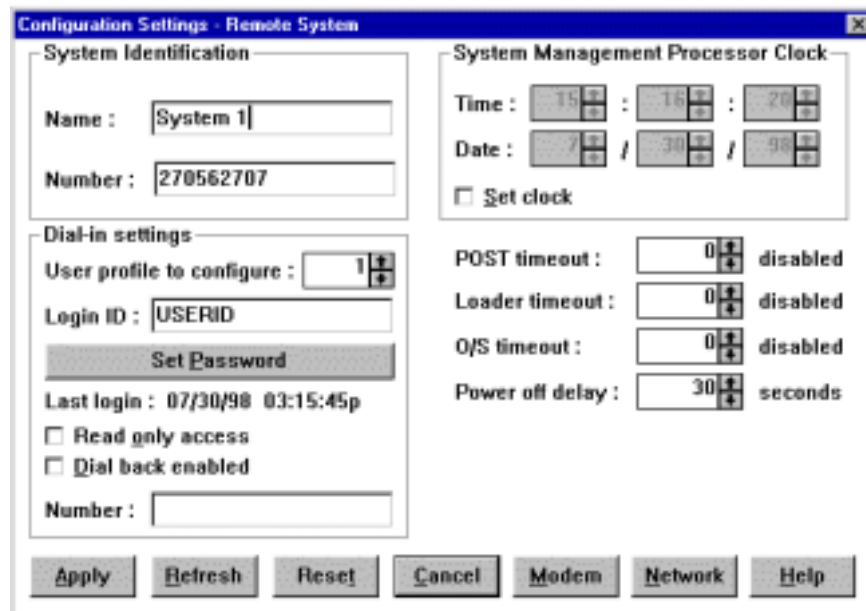


図 3. 「Configuration Settings」ウィンドウ

これらのフィールドが表示する情報を変更する手順は、次のとおりです。

1. 「Name」フィールドまたは「Number」フィールドに、記録するシステム情報を入力します。
2. 「Apply」をクリックして、この情報を保管します。

「Dial-In settings」グループ

「Dial-In settings」グループの選択項目を使用して、ダイヤルイン・サポートを使用可能または使用不可にし、またユーザーの Netfinity システム管理プロセッサへのダイヤルインとアクセスを可能にします。「Dial-In settings」グループには、次の項目があります。

項目	説明
User profile to configure	スピン・ボタンを使用して、構成するユーザー・プロファイルを選択します。このサービスは、サーバー上のプロファイルを 12 個までサポートします。
Login ID	リモート・ユーザーが使用するログイン ID をこのフィールドに入力します。ログイン ID は 12 個まで構成できます (このフィールドには大文字小文字の区別があります)。 注: Netfinity システム管理プロセッサにリモート側からアクセスするには、ログイン ID を指定する必要があります。
Set Password	リモート・ユーザーが Netfinity システム管理プロセッサにアクセスできるようにするには、ログイン ID とともにパスワードを指定する必要があります。ログイン ID を指定した後、「Set Password」をクリックして「Set Password」ウィンドウを開きます (「Set Password」ウィンドウのフィールドには大文字小文字の区別があります)。 注: このパスワードは、5 ~ 8 文字の長さにする必要があり、非英数字を少なくとも 1 文字含んでいる必要があります。
Last login	リモート・ユーザーが最後にログインに成功した日時を表示します。
Read only access	「Read only access」チェック・ボックスにチェック・マークが付いている場合、選択したプロファイルを持つユーザーは、アクセスが許可されても Netfinity システム管理プロセッサの設定を更新できません。ただしユーザーは、現在構成されている設定と値をすべて表示できます (パスワードを除く)。
Dial back enabled	「Dial back enabled」チェック・ボックスにチェック・マークが付いている場合、選択したプロファイルを持つユーザーがログインすると、Netfinity システム管理プロセッサは接続をすぐに終了し、「Number」フィールドに入力された電話番号を使用してダイヤルアウトを行い、リモート・システムとの接続を試みます。

必要に応じ、「Modem」をクリックして「Modem Settings」ウィンドウにアクセスします (15ページの『モデム設定』を参照)。「Modem Settings」ウィンドウで、モデム設定とダイヤルイン設定を指定できます。

リモート・ユーザーのために新しいログイン ID を作成するには、次の手順を実行します。

1. 「Login ID」フィールドに、リモート・ユーザーが使用する ID を入力します。この ID は、8 文字まで入力できます。
2. リモート・ユーザーは、Netfinity システム管理プロセッサにアクセスするためにログイン ID とともにパスワードを入力する必要があります。「Set Password」をクリックして、「Set Password」ウィンドウを開きます。

「Set Password」ウィンドウで、次のことを行います。

- a. 「Enter Password」フィールドに、パスワードを入力します。

注: このパスワードは、5 ~ 8 文字の長さにする必要があり、非英数字を少なくとも 1 文字含んでいる必要があります。

- b. 「**Re-enter Password**」フィールドに、「**Enter Password**」フィールドに入力したものと同一パスワードを入力します。
 - c. 「**OK**」をクリックしてこのパスワードを保管し、「**Set Password**」ウィンドウを閉じます。
3. 「**Apply**」をクリックして、新しいユーザー ID を保管します。

重要

セキュリティのために、Netfinity システム管理プロセッサを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。

現在選択されているログイン ID を削除するには、次の手順を実行します。

1. 「**User ID to configure**」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、構成済みのユーザー・プロファイルを選択します。
2. 「**Login ID**」フィールドをクリックします。
3. Backspace キーまたは Delete キーを使用して、現在表示されているログイン ID を削除します。
4. 「**Apply**」をクリックしてユーザー ID を削除します。

「System Management Processor Clock」グループ

「System Management Processor Clock」グループのフィールドは、Netfinity システム管理プロセッサが報告する時刻と日付を設定するために使用します。

注: システム管理プロセッサ・クロックは、システム・クロックとは分離、独立しています。この設定を変更しても、システム・クロックには影響しません。

時刻または日付を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「**Set System Management Processor Clock**」チェック・ボックスにチェック・マークが付いていることを確認します。システム管理プロセッサが、現在保管されている時刻と日付の値を変更できるようにするには、このチェック・ボックスにチェック・マークを付ける必要があります。
2. 各フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、時刻または日付を設定します。
 - 「**Time**」フィールドは、左から右に、時、分、秒を表します。
 - 「**Date**」フィールドは、左から右に、月、日、年を表します。
3. 「**Apply**」をクリックして、新しい時刻と日付を保管します。

POST タイムアウト

「**POST timeout**」フィールドは、POST タイムアウト・イベントをログに記録する前に、Netfinity システム管理プロセッサがシステムの自己診断テスト (POST) の完了を待機する秒数を表示します。POST の完了にかかった時間が構成された時間より長く、かつ「**POST timeout**」チェック・ボックス (「**Remote Alert Settings**」ウィンドウの「**Enabled Alerts**」グループにある) にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理プロセッサ

ーはシステムを 1 回自動的に再始動し、使用可能になっているリモート・アラート・エントリーすべてにアラートの転送を試みます。システムが再始動すると、システムが正しくシャットダウンされて再始動するまで、「**POST timeout**」は自動的に使用不可になります。

注: このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合に、POST タイムアウトが検出されると、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

POST タイムアウト値を設定するには、「**POST timeout**」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理プロセッサが POST の完了を待機する秒数を設定します。その後、「**Apply**」をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の POST タイムアウト値は、7650 秒です。この値を 0 に設定すると、POST タイムアウトの検出が使用不可になります。

「Remote Alert Settings」ウィンドウの詳細については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

ローダー・タイムアウト

「**Loader timeout**」フィールドは、ローダー・タイムアウト・イベントをログに記録する前に、Netfinity システム管理プロセッサがシステムのロード・プロセスの完了を待機する秒数を表示します。ローダー・タイムアウトは、POST の完了から、オペレーティング・システム (O/S) の始動終了までの間に経過する時間を測定します。この完了にかかった時間が構成された時間より長く、かつ「**Loader timeout**」チェック・ボックス（「Remote Alert Settings」ウィンドウの「**Enabled Alerts**」グループにある）にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理プロセッサはシステムを 1 回自動的に再始動し、使用可能になっているリモート・アラート・エントリーすべてにアラートの転送を試みます。システムが再始動すると、システムが正しくシャットダウンされて再始動するまで、「**Loader timeout**」は自動的に使用不可になります。

注: このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合に、ローダー・タイムアウトが検出されると、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

ローダー・タイムアウト値を設定するには、「**Loader timeout**」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理プロセッサがタイムアウト・イベントに回答する前に、POST 完了から O/S 始動までの間待機する秒数を設定します。その後、「**Apply**」をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大のローダー・タイムアウト値は、7650 秒です。この値を 0 に設定すると、ローダー・タイムアウトの検出が使用不可になります。

「Remote Alert Settings」ウィンドウの詳細については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

O/S タイムアウト

O/S が正しく稼働していることを確認するために、Netfinity システム管理プロセッサから O/S に定期的にシグナルが送信されます。O/S がこの信号に 6 秒以内に回答しないと、O/S タイムアウト・イベントが発生します。「**O/S timeout**」フィールドは、Netfinity システム管理プロセッサが O/S タイムアウト・チェックを行う間隔の秒数を表示します。O/S が 6 秒以内に回答しない場合、Netfinity システム管理プロセッサはシステムの再始動を試み、「**O/S timeout**」チェック・ボックス（「Remote Alert Settings」ウィンドウの「**Enabled Alerts**」グループにある）にチェック・マークが付いている場合、Netfinity システム管理プ

ロセッサーはシステムを 1 回自動的に再始動し、使用可能になっているリモート・アラート・エントリーすべてにアラートの転送を試みます。

注: このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合に、O/S タイムアウトが検出されると、システムは再始動しますが、アラートは転送されません。

O/S タイムアウト値を設定するには、「O/S timeout」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが O/S タイムアウト・チェックを行う間隔の秒数を設定します。その後、「Apply」をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の O/S タイムアウト値は、255 秒です。この値を 0 に設定すると、O/S タイムアウトの検出が使用不可になります。

「Remote Alert Settings」ウィンドウの詳細については、21 ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

電源オフ遅延

「Power off delay」フィールドは、Netfinity システム管理プロセッサーがシステムの電源をオフにする前に、システムのオペレーティング・システムのシャットダウン・プロセスが完了するまで待機する秒数を表示します。

Netfinity システム管理プロセッサーがシャットダウン手順を開始したとき、「Power off」チェック・ボックス（「Remote Alert Settings」ウィンドウの「Enabled Alerts」グループにある）にチェック・マークが付いていれば、Netfinity システム管理プロセッサーは、使用可能になっているリモート・アラート・エントリーすべてにアラートの転送を試みます。このアラートは、システムの電源がオフになってから、「Power off delay」の時間が経過した後転送されます。

電源オフ遅延値を設定するには、「Power off delay」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理プロセッサーがシステムの電源をオフにする前に、システムのオペレーティング・システムのシャットダウンが完了するまで待機する秒数を設定します。その後、「Apply」をクリックしてこの値を保管します。設定できる最大の電源オフ遅延値は、9999 秒です。この値を 0 に設定すると、電源オフ遅延が使用不可になります。

「Remote Alert Settings」ウィンドウの詳細については、21 ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

その他の構成設定機能

「Configurations Settings」ウィンドウには、他に次の 3 つのボタンがあります。

ボタン	説明
Refresh	「Configuration Settings」ウィンドウに表示されているデータ（日付、時刻、最終ログイン時刻など）をすべて更新するには、「Refresh」をクリックします。
Reset	システム管理の設定（構成設定、ダイヤルアウト設定、拡張ダイヤルアウト設定など）をすべてデフォルト値に戻すには、「Reset」をクリックします。 重要: 構成済みのシステム管理の設定値は、すべて永久に失われます。
Cancel	変更内容を保管せずにこのウィンドウを閉じるには、「Cancel」をクリックします。

モデム設定

「Modem Settings」ウィンドウは、モデムとダイヤル呼び出しの設定値を指定するために使用します。このウィンドウを開くには、「Configuration Settings」ウィンドウ (9ページの『構成設定』を参照) の「Modem」をクリックします。

The image shows a dialog box titled "Modem Settings - My Netfinity server". It is divided into two main sections: "Port Configuration" and "Dialing Settings".

Port Configuration:

- Port to configure: 2 (spin button)
- Baud rate: 57600 (spin button)
- Initialization string: ATZ (text field)
- Hangup string: ATH0 (text field)
- Port selected
- Advanced (button)

Dialing Settings:

- Dial-in enabled
- Dialout retry limit: 5 (spin button)
- Dialout number spacing: 15 (spin button)
- Dialout retry delay: 30 (spin button)
- Dial-in delay (minutes): 2 (spin button)

Buttons at the bottom: Apply, Refresh, Cancel, Help.

図 4. 「Modem Settings」ウィンドウ

「Port Configuration」グループ

「Port Configuration」グループは、システム管理イベントが発生したときに、アラートの転送に使用するモデムを指定し、構成するために使用します。「Port Configuration」グループには、次の項目があります。

項目	説明
Port to configure	スピン・ボタンを使用して、モデムが使用するように構成するポートを選択します。このスピン・ボタンは、Netfinity システム管理プロセッサが使用できる値だけを表示します。 使用するポートの選択は、Netfinity システム管理 PCI アダプター、またはオペレーティング・システムのどちらがモデムを使用できるかに影響します。システムまたはシステム管理サービスが使用できるポートは、ハードウェア構成によって異なります。使用しているポートについては、16ページの『システム管理ポートのリファレンス』を参照してください。
Baud rate	スピン・ボタンを使用して、モデムの通信速度を指定します。
Port selected	このチェック・ボックスは、「Port to configure」フィールドに現在表示されているポート番号が、Netfinity システム管理プロセッサが使用するように現在指定されているポートかどうかを示します。現在表示されているポート番号を Netfinity システム管理プロセッサが使用するように構成する場合は、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
Initialization string	指定したモデムに対して使用する初期化文字列を入力します。デフォルトの文字列が提供されています (ATE0)。ダイヤル機能が正しく機能しない場合を除いては、この文字列を変更しないでください。初期化文字列を変更する必要がある場合は、18ページの『初期化文字列のガイドライン』を参照してください。

項目	説明
Hangup string	モデムに切断を指示するために使用する初期化文字列を入力します。デフォルトの文字列が提供されています (ATH0)。ダイヤル機能が正しく機能しない場合を除いては、この文字列を変更しないでください。初期化文字列を変更する必要がある場合は、18ページの『初期化文字列のガイドライン』を参照してください。
「Advanced」ボタン	このボタンをクリックして、「Advanced Port Configuration」ウィンドウ (16ページの図5を参照) を開きます。

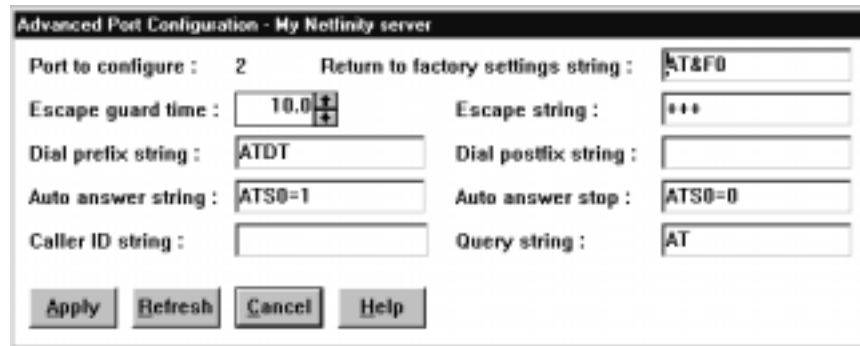


図 5. 「Advanced Port Configuration」ウィンドウ

「Advanced Port Configuration」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
Caller ID string	モデムから呼び出し元 ID を取得するために使用する初期化文字列を入力します。
Return to factory settings string	モデムの初期化時に、モデムを工場設定値に戻す初期化文字列を入力します。デフォルトは AT&F0。
Query string	モデムが接続されているかどうかを検出するために使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは AT。
Escape string	モデムが現在別のモデムと対話している (接続している) ときに、モデムをコマンド・モードに戻す初期化文字列を入力します。デフォルトは +++。
Escape guard time	このフィールドには、モデムにエスケープ文字列が発行される前後の時間の長さを入力します。この値は、10 ミリ秒単位です。デフォルト値は 1 秒。
Dial prefix string	番号をダイヤルする前に使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは ATDT。
Dial postfix string	番号をダイヤルした後、モデムにダイヤルを停止するように指示するために使用する初期化文字列を入力します。デフォルトは、改行文字または ^M。
Auto-answer string	電話のリングがあったときに、電話に回答するようにモデムに指示する初期化文字列を入力します。デフォルトは、2 回のリング後に回答、または ATS0=2。
Auto-answer stop	電話のリングがあったときに、電話に自動的に回答しないようにモデムに指示する初期化文字列を入力します。デフォルトは ATS0=0。

システム管理ポートのリファレンス

使用するポートの選択は、Netfinity システム管理 PCI アダプター、またはオペレーティング・システムのどちらがモデムを使用できるかに影響します。システムまたはシステム管理サービスが使用できるポートは、ハードウェア構成によって異なります。

- システムにシステム管理プロセッサだけが備わっている場合は、このテーブルを使用して、使用できるポートを判別します。

物理ポート (ラベルに記載)	A	B	C
システム管理が使用できるポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専用
オペレーティング・システムが使用できるポート	COM 1 共用	COM 2	N/A

- システムにシステム管理 PCI アダプターだけが備わっている場合は、このテーブルを使用して、使用できるポートを判別します。

物理ポート (ラベルに記載)	A	B	MODEM	COM_AUX
システム管理が使用できるポート	N/A	N/A	ポート 1 共用	ポート 2 専用
オペレーティング・システムが使用できるポート	COM 1	COM 2	COM 3 共用	N/A

- システムにシステム管理 PCI アダプターが備わっている場合は、このテーブルを使用して、使用できるポートを判別します。

物理ポート (ラベルに記載)	A	B	C	MODEM	COM_AUX
システム管理が使用できるポート	ポート 1 共用	N/A	ポート 2 専用	N/A	N/A
オペレーティング・システムが使用できるポート	COM 1 共用	COM 2	N/A	N/A	N/A

注:

- 共用ポートは、システムが稼働しているときに、オペレーティング・システムに認識されます。共用ポートは、サーバーの始動時、または電源オフ時に、システム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサに認識されます。また共用ポートは、DOS による始動時にはシステムにも認識されますが、システム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサには認識されません。
- システム管理 PCI アダプターだけを備えたシステム (例: Netfinity 7000 M10) では、オペレーティング・システムが COM3 を認識するためには、デバイス・ドライバーが実行されている必要があります。

「Dialing Settings」グループ

「Dialing Settings」は、モデムに関連した設定値を指定し、またシステム管理イベントが発生したときに、アラートの転送に使用するモデムを構成するために使用します。「Dialing Settings」グループには、次の項目があります。

項目	説明
Dial-in enabled	リモート・ユーザーが Netfinity システム管理プロセッサにダイヤルしてアクセスできるようにするには、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。このボックスにチェック・マークが付いていない場合は、リモート・ユーザーは Netfinity システム管理プロセッサにリモート・アクセスできません。このチェック・ボックスのチェック・マークを変更した後は、「Apply」をクリックして新しい設定を保管します。
Dialout retry limit	<p>スピン・ボタンを使用して、システム管理プロセッサがアラートの転送を追加で試行する回数を選択します。</p> <p>ダイヤルアウト試行制限は、英数字ボケベルにアラート情報を送信する試行にだけ適用されます。Netfinity システムまたは数字ボケベルにアラート情報を転送する場合は、この情報の転送を 1 回だけ試行できます。</p> <p>このフィールドの最大値は 8 です。</p>
Dialout retry delay	<p>スピン・ボタンを使用して、システム管理がダイヤルアウトの再試行を行う前に待機する秒数を指定します。</p> <p>このフィールドの最小値は 30 秒で、最大値は 240 秒です。</p>
Own port on startup	<p>シリアル・ポートを Netfinity システム管理プロセッサ専用として予約するには、このチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。Netfinity システム管理プロセッサがシステムに内蔵されている場合は、このボックスにチェック・マークを付けると、システムのシリアル・ポートの 1 つが予約されます。Netfinity システム管理プロセッサがアダプターである場合は、このボックスにチェック・マークを付けると、アダプターの内蔵通信ポートの 1 つが予約されます。このチェック・ボックスのチェック・マークを変更した後は、「Apply」をクリックして新しい設定を保管します。</p> <p>注: システムをダイヤルイン・アクセス用に構成している場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていないと、Netfinity システム管理プロセッサがポートをダイヤルアウト用に再利用した場合を除いて、ユーザーはこのシステムにダイヤルできなくなります。Netfinity システム管理プロセッサが常にダイヤルインに対応するように構成する場合は、システムの電源が現在オンであるかどうかに関係なく、このチェック・ボックスにチェック・マークを付ける必要があります。このチェック・ボックスにチェック・マークが付いている場合は、指定したポートがシステムが使用するように構成することはできません。</p>
Dialout number spacing	<p>アラートを転送するように複数のリモート・アラート・エントリーを構成した場合、Netfinity システム管理プロセッサはこれらのエントリーそれぞれとの通信を順次試みます。個々のリモート・アラート・エントリーに対し、Netfinity システム管理プロセッサがダイヤルアウトを試行する間隔の秒数を、スピン・ボタンを使用して指定します。</p> <p>このフィールドの最小値は 15 秒で、最大値は 120 秒です。</p>
Dial-in delay (minutes)	<p>「Dial-in delay (minutes)」フィールドは、ダイヤルインの試行の際に誤ったユーザー ID またはパスワードが 5 回連続して使われた後、有効なダイヤルイン・アクセスを許可するまでに経過しなければならない分数を表示します。5 回連続してログインが失敗した後、指定した分数の間はダイヤルイン・アクセスが使用不可になります。Netfinity システム管理プロセッサは、5 回連続してログインが失敗したためにダイヤルイン・アクセスが中断されたことを示すエントリーを、イベント・ログに追加します。また、「Enabled Alerts」の「Tamper」チェック・ボックスにチェック・マークが付いている場合 (21 ページの図 7 を参照)、Netfinity システム管理プロセッサはアラートの転送を試みます。</p> <p>このフィールドの最小値は 4 分で、最大値は 240 分です。</p>

初期化文字列のガイドライン

新しい初期化文字列を指定する必要がある場合は、モデムに付属のユーザーズ・ガイドを参照してください。初期化文字列には、モデムを次のように構成するコマンドが含まれている必要があります。

- コマンド・エコーはオフ
- オンライン文字エコーはオフ
- 結果コードは使用可能
- 文字結果コードは使用可能
- BUSY と DT の検出を行い、すべてのコードと接続メッセージを表示

- 追加するプロトコル ID - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 通常の CD 操作
- DTR ON-OFF ハングアップ、AA 使用不可、コマンド・モードに復帰
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターへの受信データの RTS 制御
- 待ち行列化非破壊切断、エスケープ状態なし

注: 上記のコマンドにある略語の意味は、次のとおりです。

AA	自動応答
CD	キャリア検出
CTS	送信可
DT	データ転送
DTR	データ端末作動可能
LAPM	モデム用リンク・アクセス・プロトコル
MNP	microcom ネットワーク・プロトコル
RTS	送信要求

ネットワーク設定

「Network Settings」ウィンドウは、Netfinity システム管理 PCI アダプターのネットワーク設定を指定するために使用します。このウィンドウを開くには、「Configuration Settings」ウィンドウ (9ページの『構成設定』を参照) の「**Network**」をクリックします。

注: このウィンドウは、システム管理サービスを使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムを管理する場合、または動的接続を使用して Netfinity システム管理 PCI アダプターとの TCP/IP リンクを確立した場合にだけ使用できます。Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムと接続していない場合は、このウィンドウは使用できません。

図 6. 「Network Settings」ウィンドウ

「Network Settings」ウィンドウには、次の項目があります。

項目	説明
「Network interface」スピン・ボックス	スピン・ボタンを使用して、構成するネットワーク・インターフェースを選択します。使用するネットワーク・インターフェースを選択したら、「Interface selected」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
Host name	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する TCP/IP ホスト名を入力します。
IP address	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する IP アドレスを入力します。
Subnet mask	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するサブネット・マスクを入力します。
Gateway	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するゲートウェイの TCP/IP アドレスを入力します。
Line type	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する回線タイプを選択します。選択できる項目は、イーサネット、PPP、およびトークンリングです。必要に応じ、「Routing」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。
Data rate	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用するデータ転送速度を選択します。選択できる項目は、AUTO、4M、16M、10M、および 100M です。
Duplex	スピン・ボタンを使用して、Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する全二重方式を選択します。選択できる項目は、AUTO、FULL、および HALF です。
MTU size	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する最大伝送単位 (MTU) 値を入力します。
MAC address	Netfinity システム管理 PCI アダプターが使用する、ネットワーク・アダプターのメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。

これらの設定値を変更した後、まず「Apply」をクリックして変更内容を保管します。次に「Restart」をクリックして、変更内容が有効になるように Netfinity システム管理 PCI アダプターを再始動します。ネットワーク設定に対する変更は、アダプターが再始動するまでは有効になりません。

リモート・アラート設定

「Remote Alert Settings」ウィンドウ (図7 を参照) は、システム管理アダプターまたはプロセッサのアラート転送機能を構成するために使用します。リモート・アラート・エントリーを構成すると、システム管理アダプターまたはプロセッサは、「Enabled Alerts」グループから選択したイベントのいずれかが発生したときに、リモート Netfinity システム (シリアル接続またはネットワーク接続を経由して)、数字ポケベル、または英数字ポケベルにアラートの転送を試みます。このアラートには、発生したイベントの性質に関する情報、イベントが発生した時刻と日付、およびアラートを生成したシステムの名前が含まれます。

個々のクリティカルまたは非クリティカルなダイヤルアウト・イベントにตอบสนองして、複数のポケベルまたは Netfinity Manager システムにアラートを転送するように、システム管理アダプターまたはプロセッサを構成できます。したがって「Dialout status」のテキストは、最初のアラート転送操作が開始するとすぐに DIALOUT ON と表示され、最初のアラート転送操作が完了すると DIALOUT OFF に変わり、2 番目のアラート転送操作が開始すると DIALOUT ON に変わり、2 番目のアラート転送操作が完了すると DIALOUT OFF に変わり、その後も同様です。「Stop Dialout」をクリックすると、Netfinity システム管理プロセッサは現在アクティブなアラート転送操作を中止し、次の転送操作に進みます。

Netfinity システム管理プロセッサに対しては、6 個のリモート・アラート・エントリーを構成できます。

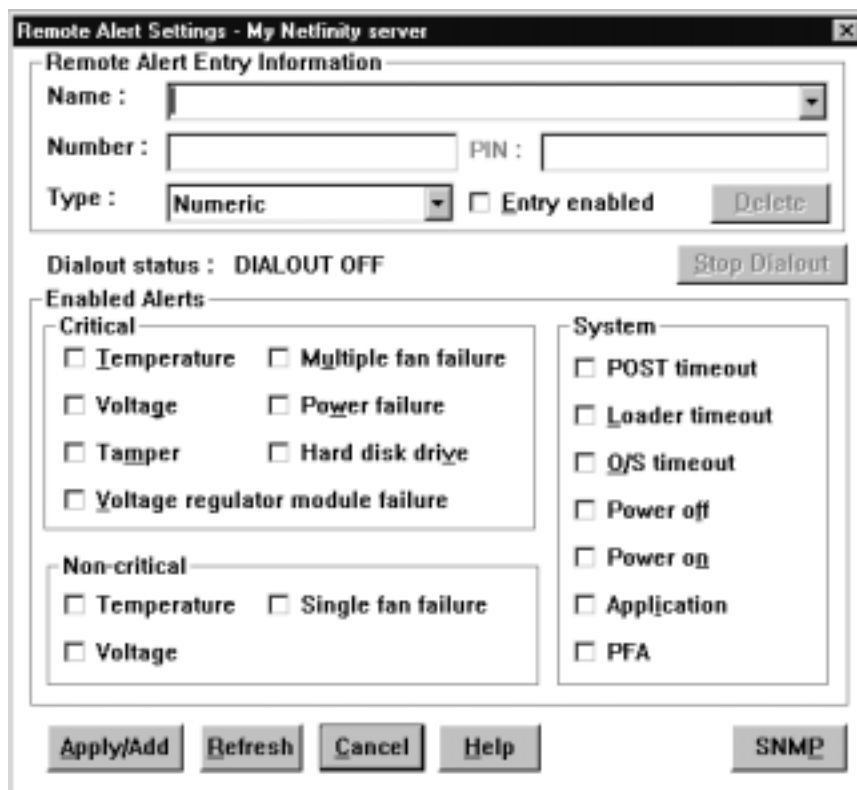


図 7. 「Remote Alert Settings」ウィンドウ

「Remote Alert Entry Information」グループ

リモート・アラート・エントリーを作成または編集する手順は、次のとおりです。

1. 「**Name**」フィールドに、アラートを転送する先のユーザーまたはシステムの名前を入力します。「**Name**」フィールドの情報は、ユーザーがリモート・アラート・エントリーを識別するためだけに使用します。構成済みのリモート・アラート・エントリーを編集する場合は、編集するエントリーを「**Name**」選択リストから選択します。
2. 「**Number**」フィールドに、アラートの転送に使用する電話番号（ポケベル、またはシリアル・リンクを使用する Netfinity システムにアラートを転送する場合）、または IP アドレス（ネットワーク・アダプターを使用するシステムにアラートを転送する場合。この機能は Netfinity システム管理 PCI アダプターでのみサポートされます）を入力します。

注： ポケベル・サービスによっては、このアラート・アクションが電話番号をダイヤルした後、数値データを送信する前に待機する時間を増やす必要が生じることがあります。数値データを送信する前に経過する時間を増やすには、電話番号の最後に 1 つまたは複数のコンマ (,) を追加します。それぞれのコンマによって、モデムは数値データを送信する前に 2 秒ずつ待機します。
3. 「**PIN**」フィールドに、英数字ポケベルのプロバイダーが必要とする個人識別番号を入力します。このフィールドは、「**Type**」フィールドで「**Alphanumeric**」を選択した場合だけアクティブになります。
4. 「**Type**」選択リストで、イベント通知を転送するために Netfinity システム管理プロセッサが試行する接続のタイプを選択します。「**Numeric**」（標準ポケベルの場合）、「**Alphanumeric**」（英数字ポケベルの場合）、「**Netfinity Serial**」（シリアル・リンクを使用してリモートの Netfinity システムと接続する場合）、または「**Netfinity IP**」（TCP/IP リンクを使用してリモートの Netfinity システムと接続する場合。Netfinity システム管理 PCI アダプターを備えたシステムでのみ使用可能）を選択できます。
5. 「**Entry enabled**」チェック・ボックスにチェック・マークを付けて、このリモート・アラート・エントリーをアクティブにします。「**Entry enabled**」チェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合は、このエントリーにはアラートが送信されません。
6. 「**Enabled Alerts**」グループからダイヤルアウト・イベントを選択します。チェック・マークの付いたイベントのいずれかが発生すると、Netfinity システム管理プロセッサは「**Number**」フィールドに指定された電話番号または IP アドレスを使用し、「**Type**」フィールドで選択された方式を使用して、イベントを記述するアラートを転送します。これらのイベントについて詳しくは、『「**Enabled Alerts**」グループ』を参照してください。
7. 「**Apply/Add**」をクリックして、これらの設定を保管します。

リモート・アラート・エントリーを削除するには、「**Name**」選択リストでエントリーの名前を選択して、「**Delete**」をクリックします。

「Enabled Alerts」グループ

「Enabled Alerts」グループにある選択項目は、システム管理アダプターまたはプロセッサが、どのイベントが発生した場合に、現在構成されているエントリーすべてに連絡を取るかを指定します。選択された項目が Netfinity システム管理プロセッサによって検出された場合、「**Type**」フィールドで選択された方式を使用して、リモート・アラート・エントリーの「**Name**」フィールドに指定された宛先に、イベントを記述するアラートが転送されます。

アラートがポケベルに転送される場合、システム管理はアラートのトリガー・イベントに関する情報を含めます。アラートが数字 (または標準) ポケベルに転送される場合、ページにはトリガー・イベントに対応するコード番号が含まれます。アラートが英数字ポケベルに転送される場合、ページにはトリガー・イベントを記述するコード番号とテキスト・ストリングの両方が含まれます。ポケベルに送信される数字コードとテキスト・ストリングの詳細については、次の表を参照してください。

「Enabled Alerts」グループは、「Critical」、「Non-critical」、および「System」の各グループに分割されています。「Critical Enabled Alerts」グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェック・マークが付いている場合)	数字コード	テキスト・ストリング
Temperature	監視対象の温度がしきい値を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送し、自動的にシステムのシャットダウンを開始します。	00	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO TEMPERATURE
Voltage	監視対象の電源が指定の作動可能範囲から外れた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	01	SYSTEM SHUTDOWN DUE TO VOLTAGE
Tamper	リモート・ログインの試行が 6 回連続して失敗した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはイベント・ログにエントリーを追加します。	02	SYSTEM TAMPER ALERT
Voltage regulator module failure	電圧調節器モジュール (VRM) が故障した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送し、自動的にシステムのシャットダウンを開始します。	06	VRM FAILURE
Multiple fan failure	複数のシステム冷却ファンが故障した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送し、かつシステムのシャットダウンを自動的に開始します。	03	MULTIPLE SYSTEM FAN FAILURES
Power failure	システムの電源機構が故障した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	04	POWER SUPPLY FAILURE
Hard disk drive	システム内のハード・ディスクが故障した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	05	DASD FAULT

「Non-critical Enabled Alerts」グループには、次の項目があります。

項目	説明 (チェック・マークが付いている場合)	数字コード	テキスト・ストリング
Temperature	監視対象の温度がしきい値を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。ただし、クリティカル温度イベントとは異なり、このアラートはシステムのシャットダウンを自動的に開始しません。	12	NON-CRITICAL TEMPERATURE THRESHOLD EXCEEDED
Voltage	監視対象の電圧がしきい値を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	13	NON-CRITICAL VOLTAGE THRESHOLD EXCEEDED

項目	説明 (チェック・マークが付いている場合)	数字コード	テキスト・ ストリング
Single fan failure	システムの冷却ファンの 1 つが故障した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	11	SINGLE FAN FAILURE
「System Enabled Alerts」グループには、次の項目があります。			
項目	説明 (チェック・マークが付いている場合)	数字コード	テキスト・ ストリング
POST timeout	POST タイムアウト値 (「Configuration Settings」ウィンドウで指定された) を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	20	POST/BIOS WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
Loader timeout	ローダー・タイムアウト値 (「Configuration Settings」ウィンドウで指定された) を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	26	LOADER WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
O/S timeout	O/S タイムアウト値 (「Configuration Settings」ウィンドウで指定された) を超えた場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	21	OPERATING SYSTEM WATCHDOG EXPIRED. SYSTEM RESTARTED
Power off	システムの電源がオフになった場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	23	SYSTEM COMPLEX POWERED OFF
Power on	システムの電源がオンになった場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します。	24	SYSTEM COMPLEX POWERED ON
Application	Netfinity アラートを受信した場合に、Netfinity システム管理プロセッサはアラートを転送します (Netfinity は、アラート・マネージャーの「Forward Alert to System Management Subsystem」アクションを使用して、Netfinity システム管理プロセッサに直接アラートを転送できます)。	22	APPLICATION LOGGED EVENT
PFA®	Netfinity システム管理プロセッサは、システムから事前障害分析 (PFA) アラートを受信した場合に、アラートを転送します。	27	PFA

イベント・ログ

「Event Log」ウィンドウ (25ページの図8 を参照) を開くには、「Event Log」を使用します。このウィンドウには、システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに現在保管されているエントリがすべて表示されます。発生したりモート・アクセスの試行とダイヤルアウト・イベントに関する情報は、すべて システム管理アダプターまたはプロセッサのイベント・ログに記録されます。



図 8. 「Event Log」ウィンドウ

注: サーバーでシステム管理サービスを使用している場合は、イベント・ログには POST エラー・メッセージも含まれます。

「Event Log」ウィンドウの「Options」メニューからは、次の機能が使用できます。

Load 「Event Log」ウィンドウの内容をリフレッシュします。

Print to File 「Event Log」ウィンドウの内容をテキスト・ファイルに保管します。

Print to Printer

「Event Log」ウィンドウの内容を、システムに接続されたプリンターに送信します。

Clear Log イベント・ログに現在保管されているエントリーをすべて消去します（「Event Log」ウィンドウに現在表示されていないエントリーを含む）。

注: いったん「Clear Log」を使用してイベント・ログのエントリーを消去したら、復元することはできません。

システム稼働パラメーター

「System Operational Parameters」ウィンドウ (26ページの図9 を参照) には、システム管理アダプターまたはプロセッサが監視している、さまざまなシステム・コンポーネントの現在の値または状況が表示されます。表示される値には、次のものがあります。

- 電源機構の電圧 (+5 V dc、+12 V dc、+3.3 V dc、-12 V dc など)
- 終端アダプター、中央アダプター、マイクロプロセッサ、システム・ボード、ハード・ディスク・バックプレーンなど、システム・コンポーネントの現在の温度としい値レベル。

注:

1. 監視対象のシステム・コンポーネントは、システム管理アダプターまたはプロセッサによって異なります。
 2. VRM 電圧は、監視されますが表示されません。
- システムの状態 (O/S 開始、O/S 稼働、POST 開始、POST 停止 (エラーが検出された)、システムの電源オフ/状況不明など)。
 - システムの電源状況 (オン/オフ)。
 - 電源オン時間 (システムの電源がオンになってからの総時間数)。(これは、全稼働時間の累積カウントで、システムが最後に再始動してからの時間数のカウントではありません)。

The screenshot shows a window titled 'System Operational Parameters - My Netfinity server'. It contains two main sections: 'Temperatures (degrees celsius)' and 'Voltages'. The temperature section has a table with columns for Value, Warning, Reset, Warning, Soft Shutdown, and Hard Shutdown. The voltage section has a table with columns for Source, Value, Warning, and Reset. To the right of the voltage table is a 'System Status' section with various indicators.

Temperatures (degrees celsius)						
	Value	Warning	Reset	Warning	Soft Shutdown	Hard Shutdown
Microprocessor 1	27.00	43.00	55.00	62.00	65.00	
Microprocessor 2	27.00	42.00	53.00	60.00	65.00	
Disk backplane	23.00	38.00	42.00	45.00	50.00	

Voltages			System Status	
Source	Value	Warning	Reset	
+5 Volt	5.04	[4.90, 5.25]		System Power ON
-5 Volt	-5.12	[-5.75, -4.25]		Power-on Hours 647
+3 Volt	3.29	[3.25, 3.35]		Start-up Count 125
+12 Volt	12.10	[11.50, 12.50]		System State O/S activity detected
-12 Volt	-11.98	[-13.80, -10.20]		Fan 1 100%
				Fan 2 100%

図 9. 「System Operational Parameters」ウィンドウ

注: 温度モニターの中には、一部の IBM システムだけで使用できるものがあります。

システム電源制御

「System Power Control」ウィンドウは、サーバーの電源オフ、サーバーの再始動、またはサーバーの電源オンを Netfinity システム管理プロセッサに指示するために使用します。電源制御オプションのいずれかを開始するには、まず「Enable power control options」チェック・ボックスにチェック・マークを付ける必要があります。このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合は、「Power Control Options」フィールドは使用できません。

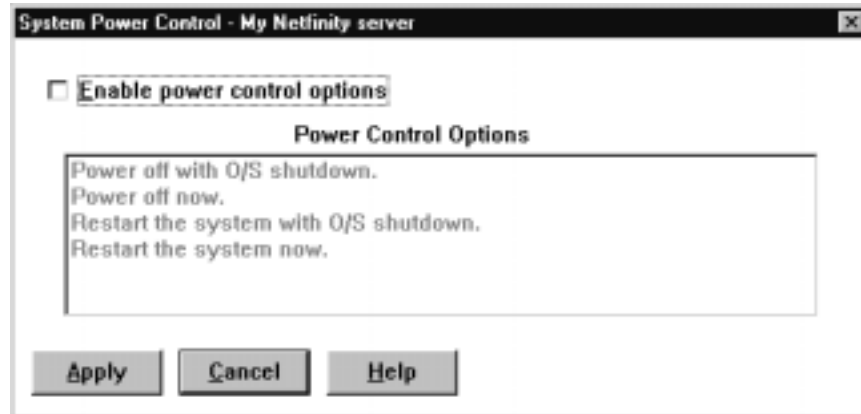


図 10. 「System Power Control」ウィンドウ

次のシステム電源制御機能は、常に使用できます。

機能	説明
Power off with O/S shutdown	システムの電源をオフにする前に、O/S のシャットダウンを実行します。
Power off now	システムの電源を即時にオフにします。
Restart the system with O/S shutdown	O/S のシャットダウンを実行し、システムの電源をオフにしてから、システムの電源を再度オンにします。
Restart the system now	システムの電源を即時にオフにしてから、システムの電源を再度オンにします。

モデムまたは TCP/IP リンクを経由して、システム管理アダプターまたはプロセッサに接続している場合は、「Power on now」選択項目も使用できます。この機能は、サーバーの電源をオンにして、マイクロプロセッサが POST、ロード、および O/S の始動手順を実行できるようにします。

電源制御オプションを開始する手順は、次のとおりです。

1. 「Enable power control options」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

注: 電源制御オプションのいずれかを開始するには、まず「Enable power control options」チェック・ボックスにチェック・マークを付ける必要があります。このチェック・ボックスにチェック・マークが付いていない場合は、「Power Control Options」フィールドは使用できません。

2. 「Power Control Options」フィールドで、アクティブにする電源制御オプションを選択します。
3. 「Apply」をクリックします。

リモート POST コンソール

システム管理のリモート POST コンソール機能を使用して、POST 時に生成されたすべてのテキストをリモート側から監視、記録、および再生できます。リモート・システム上で POST データを監視し、記録する手順は、次のとおりです。

1. リモート・システム上の Netfinity システム管理プロセッサに接続します。
2. リモート POST ウィンドウを開きます。
3. リモート・システムを再始動します (システム管理のシステム電源制御機能を使用し
て)。

リモート・システムが POST を完了すると、POST データがすべてリモート POST コンソールに表示され、コンソールによって記録されます。リモート・システム上で POST を監視しているときは、ローカルのキーストロークがすべて自動的にリモート・システムにリレーされるので、リモート・システム上で POST プロセスと対話できます。

POST の完了後にデータを検討するには、リモート・システムから切断して、再生機能を使用します。

図 11 と同様なウィンドウが表示されます。使用しているオペレーティング・システムによっては、ウィンドウに異なる情報が表示される場合があります。

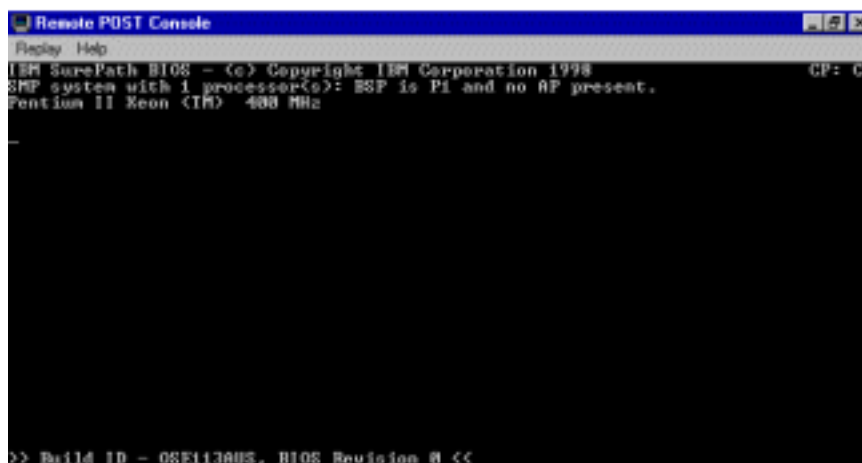


図 11. リモート POST ウィンドウ

最後のリモート POST 操作中に取り込まれたテキストを再生するには、「Replay」メニューにある選択項目を使用します。POST 中にリモート・システムによって表示されたすべてのテキストが、リモート・システムで表示されたときと同じように表示されます。

- 記録された POST データの再生を開始する場合、または記録された POST データの再生を停止した後に再開する場合は、「**Replay Last POST**」をクリックします。
- 記録された POST データの再生を停止するには、「**Stop**」をクリックします。
- 記録された POST データの表示を最初から再開するには、「**Restart**」をクリックします。
- 記録された POST データがリモート POST ウィンドウに表示される速度を指定するには、「**Fast**」、「**Medium**」、または「**Slow**」を選択します。

注: リモート POST データは、リモート・システム上のシステム管理アダプターまたはプロセッサに接続していない場合にだけ再生できます。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードの更新

重要

1. Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。詳細については、9 ページの『構成設定』を参照してください。
2. お使いのオペレーティング・システム用の、Netfinity システム管理プロセッサの最新マイクロコード・ディスク・イメージを入手するには、WWW の <http://www.pc.ibm.com/support/> にアクセスして、サーバーにイメージをダウンロードします。
3. IBM Update Connector を使用して、IBM ServerGuide プログラムに Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを自動更新させる場合は、本サーバー・ライブラリーの“ServerGuide と Netfinity マネージャー”の指示に従ってください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新する手順は、次のとおりです。

1. 「**Options**」メニューで、「**Update Microcode...**」をクリックし、「**System Management Subsystem**」をクリックします。
2. ファイル選択ウィンドウが開きます。
3. ファイル選択ウィンドウを使用して、ソース・ディスク・ドライブ (またはディスク・ドライブ) と、Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコード更新を配置するディレクトリーを選択します。
4. 「**OK**」をクリックして続行します。
5. 警告が表示され、続行するかどうか確認を求められます。「**OK**」をクリックして続行するか、「**Cancel**」をクリックしてマイクロコード更新プロセスを停止します。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードの更新を続行することを確認すると、システム管理サービスは Netfinity システム管理プロセッサにマイクロコードの更新を適用します。

このプロセスの実行中、Netfinity システム管理プロセッサのモニター機能の一部 (環境モニターなど) が使用不可になります。マイクロコードの更新が完了した後、システム・モニターはすべて再開されます。

第4章 Netfinity Manager を使用しないシステム管理ハードウェアの構成

ServerGuide には、Netfinity Manager とシステム管理サービスを使用せずに、システム管理 (ASM) PCI アダプターまたはプロセッサを構成できる構成ユーティリティーが組み込まれています。構成ユーティリティーを使用すれば、次のことが可能です。

- アラート設定値を設定して、アラート機能を使用可能または使用不可にする
- ダイヤルイン/アウトの設定値を構成する
- 一般設定値 (このシステム管理ハードウェアを識別する名前と番号、ASM ハードウェアが報告する日付と時刻、各種のタイムアウト値など) を設定し、システムの電源をオンにする時刻をスケジュールする
- モデム設定値を構成する
- ネットワーク設定値を構成する

構成ユーティリティーは、次の 2 つの方法のどちらかで開始できます。

- サーバー・システム区画にアクセスして、システム管理構成ユーティリティーを開始します。

ServerGuide を使用して Netfinity サーバーを構成した場合で、かつ お使いのサーバーでシステム区画の作成がサポートされている場合 (詳しくは *Learn About ServerGuide* を参照してください)、システム区画メニューからシステム管理構成ユーティリティーを使用できます。サーバーを再始動し、POST 中に指示されたときに Alt+F1 を押します。

- システム管理構成ユーティリティー・ディスクットを使用して、システムを始動します。

システムにシステム区画がない場合は、ServerGuide Diskette Factory を使用して、システム管理構成ユーティリティー・ディスクットを作成できます。このディスクットを作成した後、サーバーのディスクット・ドライブにディスクットを入れて、サーバーを再始動します。構成ユーティリティーが自動的に始動します。

構成ユーティリティーを使用する手順は、次のとおりです。

1. CD-ROM ドライブにシステム管理 CD-ROM を挿入し、システムを再始動します。システムが CD-ROM から始動しない場合は、POST/BIOS セットアップを使用して、CD-ROM ドライブをブート装置として構成します。詳しくは、システムに付属のサーバー・ライブラリーを参照してください。
2. システムの始動後、メイン・オプション・メニューが開きます。メインメニューには次の選択項目があります。
 - Hardware Status and Information
 - Configuration Settings
 - Exit Utility

上下の矢印キーを使用して、オプションを強調表示します。オプションが強調表示されているときに F1 を押すと、各オプションのオンライン・ヘルプを表示できます。ヘル

ブ・ウィンドウで F1 を押すと、一般ヘルプを表示できます。オプションを選択するには、オプションを強調表示して Enter を押します。

3. オプションを強調表示して、Enter を押します。

- Hardware Status and Information

システム管理ハードウェアの現在の状態に関する情報を表示するには、「Hardware Status and Information」を選択します。この情報を見終わったら、Esc を押してメイン・オプション・メニューに戻ります。

- Configuration Settings

システム管理ハードウェアの構成設定を表示または変更するには、「Configuration Settings」を選択します。アラート設定、ダイヤルイン/ダイヤルアウト設定、一般設定、モデム設定、およびネットワーク設定を表示または変更できます。

アラート設定

このウィンドウは、ASM ハードウェアによってサポートされているクリティカル・アラート、非クリティカル・アラート、およびシステム・アラートをすべて使用可能または使用不可にするために使用します。これらのアラートそれぞれの説明と、これらを使用可能にした場合の効果については、21ページの『リモート・アラート設定』を参照してください。

矢印キーと Tab キーを使用して、フィールド間を移動します。左右の矢印キーを使用して、それぞれのアラートを使用可能または使用不可にします。オンライン・ヘルプを表示するには、F1 を押します。完了したら、F6 を押して保管し、メイン・オプション・メニューに戻ります。保管せずにメイン・オプション・メニューに戻るには、Esc を押します。

ダイヤルイン/アウト設定

このウィンドウは、次の 2 つのセクションに分かれています。

- Dial In (ダイヤルイン設定の構成に使用)
- Dial Out (ダイヤルアウト設定の構成に使用)

このウィンドウの「Dial In」部分を使用するには、Tab キーまたは矢印キーを使用して、カーソルを「User Profile to Configure」に移動します。その後、左右の矢印キーを使用して、ユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルを選択したら、次の値を設定できます。

- Login ID
- Password
- Dialback (使用可能または使用不可)
- Number (ダイヤルバックの場合の未使用)
- Read Only Access (使用可能または使用不可)
- Dial In (使用可能または使用不可)
- Dial In Delay (分)

これらの値のそれぞれについては、11ページの『「Dial-In settings」グループ』を参照してください。

完了したら、F6 を押して保管し、メイン・オプション・メニューに戻ります。保管せずにメイン・オプション・メニューに戻るには、Esc を押します。

このウィンドウの「Dial Out」部分を使用するには、Tab キーまたは矢印キーを使用して、カーソルを「**User Profile to Configure**」に移動します。その後、左右の矢印キーを使用して、ユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルを選択したら、次の値を設定できます。

- Login ID
- Password
- 現在選択されているエントリーの使用可能または使用不可
- Number
- PIN
- Connection Type (数字、英数字、シリアル、TCPIP)
- Description
- Dialout Retry Limit
- Dialout Number Spacing
- Dialout Retry Delay

これらの値のそれぞれについては、17ページの『「Dialing Settings」グループ』を参照してください

完了したら、F6 を押して保管し、メイン・オプション・メニューに戻ります。保管せずにメイン・オプション・メニューに戻るには、Esc を押します。

一般設定

「General Settings」構成ウィンドウを使用して、次のことを実行できます。

- このシステム管理ハードウェアを識別するための名前と番号を設定する
- ASM クロックの時刻と日付を設定する
- システムの電源を自動的にオンにする時刻と日付をスケジュールする
- POST、ローダー、および O/S のタイムアウト値、または電源オフ遅延値を指定する

名前と番号はユーザーが使用するためのもので、ネットワーク上でこれらのシステムを識別するために役立ちます。名前と番号の値は、15 文字までの長さにすることができます。

矢印キーと Tab キーを使用して、フィールド間を移動します。オンライン・ヘルプを表示するには、F1 を押します。値の入力が完了したら、F6 を押して値を保管し、メイン・オプション・メニューに戻ります。保管せずにメイン・オプション・メニューに戻るには、Esc を押します。

モデム設定

「Modem Settings」ウィンドウは、ASM ハードウェアが使用するモデムを構成するために使用します。モデム設定値のそれぞれの説明は、15ページの『モデム設定』を参照してください。

ネットワーク設定

「Network Settings」構成ウィンドウは、システム管理 PCI アダプターのネットワーク・インターフェース設定値を設定するために使用します。次の設定値を設定できます。

- Network Interface
- ネットワーク・インターフェースの使用可能 (または使用不可)
- Host Name
- IP Address
- Subnet Mask
- Gateway
- Line Type
- Routing
- Data Rate
- Duplex
- MTU Size
- MAC Address

ネットワーク設定値のそれぞれの説明は、19ページの『ネットワーク設定』を参照してください。

矢印キーと Tab キーを使用して、フィールド間を移動します。オンライン・ヘルプを表示するには、F1 を押します。ネットワーク設定値の入力が完了したら、F6 を押して値を保管し、F9 を押してシステム管理 PCI アダプターをリセットします。保管せずにメイン・オプション・メニューに戻るには、Esc を押します。

注: ネットワーク設定に対する変更内容を有効にするには、まずシステム管理 PCI アダプターをリセットする必要があります。ネットワーク設定を変更した後、必ず F9 を押してください。

第5章 Netfinity Manager を使用しない場合のシステム管理プロセッサの使用

この章では、Netfinity Manager を使用しない場合に Netfinity システム管理プロセッサを使用する方法を説明します。

Netfinity Manager を使用して Netfinity システム管理プロセッサのアクセスと管理を行うことができない場合は、端末プログラムとモデムを使用して、Netfinity システム管理プロセッサに直接接続できます。リモート機能を使用するには、このモデムをシリアル・ポート A (COM1) または管理ポート C (COM2) に接続します (シリアル・ポート A (COM1) と管理ポート C (COM2) については、本サーバー・ライブラリーの “Hardware Information” を参照してください。Netfinity システム管理プロセッサのモデムの構成については、15ページの『モデム設定』を参照してください)。

接続すれば、さまざまなモニター、構成、およびエラー・ログのデータにアクセスできます。また、次のことも可能です。

- リモート・サーバーをオンまたはオフにする
- サーバーをシャットダウンして再始動する
- Netfinity システム管理プロセッサ上でリモート・ビデオ・モードを開始する

リモート・ビデオ・モードを使用すると、POST 中に生成されたテキストをすべてリモート側から監視できます。リモート・システムが POST を完了すると、端末プログラムのウィンドウにすべての POST データが表示されます。リモート・システム上で POST を監視しているときは、ローカルのキーストロークがすべて自動的にリモート・システムにリレーされるので、POST 中にアクセスできる POST ユーティリティー (システム構成、RAID ミニ構成プログラム、診断プログラムなど) を使用できます。

Netfinity システム管理プロセッサへの直接接続の確立

端末プログラムを使用して Netfinity システム管理プロセッサとの直接接続を確立するには、次の手順を実行します。

1. 端末プログラムを使用して、Netfinity システム管理プロセッサのモデムとの接続を確立します。

次のモデム設定値を使用します。

通信速度	57.6 k
データ・ビット	8
パリティ	なし
ストップ・ビット	1
フロー制御	ハードウェア

2. Netfinity システム管理プロセッサにダイヤルします。
3. Netfinity システム管理プロセッサにログインします。

Netfinity システム管理プロセッサとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが出ます。前もって Netfinity システム管理プロセッサに対して使用するよう構成されている、ユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。

次の 2 つのユーザー名とパスワードの組み合わせのうち、どちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードには、大文字小文字の区別があります。すべて大文字を使用する必要があり、また PASSWORD 中の “0” は数字のゼロです。

- Netfinity システム管理プロセッサと Netfinity Manager を使用して定義したユーザー名とパスワード

重要

セキュリティのために、Netfinity システム管理プロセッサを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、9ページの『構成設定』を参照してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理プロセッサのメニュー

Netfinity システム管理プロセッサにログインすると、次のメインメニューが開きます。

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video

メニュー項目にアクセスするには、アクセスしたい情報に対応する番号または文字を押します。メニュー項目を選択すると、メインメニューから選択した項目に関連する詳細な情報が、後続のメニューに表示されます。メインメニューに戻るには、Esc キーを押します。

注

- 「Y Disconnect Current Logon」を選択すると、現行セッションが終了し、続行する前に新しいユーザー名とパスワードを入力するように要求されます。
- 「Read」を選択すると、最後のエントリーが表示されます。
- 「Read Last」を選択すると、エントリーが 1 つずつ戻って表示されます。
- 「Write」を選択すると、コマンドが実行されます。

メニュー選択項目	表示できるデータ
Monitors	DASD バックプレーン温度、周辺温度、マイクロプロセッサ温度、電圧測定値、電圧調節器モジュール測定値、ファンの状況
Error Logs	システム・エラー・ログの内容

メニュー選択項目	表示できるデータ
Service Processor Configuration	Netfinity システム管理プロセッサのモデム構成、ダイヤルアウト・エントリー、ダイヤルアウト・アラート、ダイヤルイン・ログイン、システム状況、しきい値、システム統計、重要プロダクト・データ (VPD) 情報、およびシステム状態
System Services	Netfinity システム管理プロセッサのウォッチドッグ・タイマーと、ホスト・システムに送信されたイベント・アラートの状況
System Power	現在のシステム電源状況、電源オフ構成、および電源オフ遅延値 注: 「System Power」メニューにある選択項目を使用して、システムの電源をオンまたはオフにできます。詳細については、37ページの『「System Power」メニューの選択項目』を参照してください。
Boot	「Boot」メニューにある選択項目を使用して、システムをシャットダウンして再始動したり、Netfinity システム管理プロセッサを再始動したりすることができます。詳細については、38ページの『「Boot」メニューの選択項目』を参照してください。
Remote Terminal Status	現在のリモート端末状況
Start Remote Video	「Start Remote Video」は、POST 中に端末プログラムがサーバーをリモート側から監視および管理できるようにします。詳細については、40ページの『リモート・ビデオ・モードを使用した POST の監視とアクセス』を参照してください。

端末プログラムを使用した Netfinity システム管理プロセッサへのアクセスが終了したら、メインメニューの「**Disconnect Current Logon**」を選択してから、端末プログラムを使用して Netfinity システム管理プロセッサへの接続をクローズします。

「System Power」メニューの選択項目

「System Power」メニューにある選択項目を使用して、次のことを実行できます。

- 現在のサーバーの電源状況に関連したデータを表示する
- サーバーの電源構成に関連したデータを表示する
- サーバーの電源をオフにする
- サーバーの電源をオンにする

これらの機能にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 端末プログラムを使用して、Netfinity システム管理プロセッサのモデムとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理プロセッサにログインします。

Netfinity システム管理プロセッサとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが出ます。前もって Netfinity システム管理プロセッサに対して使用するよう構成されている、ユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次の 2 つのユーザー名とパスワードの組み合わせのうち、どちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードには、大文字小文字の区別があります。すべて大文字を使用する必要があり、また PASSWORD 中の“0”は数字のゼロです。

- Netfinity システム管理プロセッサと Netfinity Manager を使用して定義したユーザー名とパスワード

重要

セキュリティのために、Netfinity システム管理プロセッサを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、9ページの『構成設定』を参照してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理プロセッサにログインすると、次のメインメニューが開きます。

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video

3. 「6 System Power」を選択します。

次の「System Power」メニューが開きます。

1 Current Power Status
2 Power Configuration
3 Power On
4 Power Off

4. 「System Power」メニューの項目を選択します。

- 現在のサーバーの電源状況に関する情報を表示するには、「1 Current power Status」を選択します。
- サーバーの電源構成に関する情報を表示するには、「2 Power Configuration」を選択します。
- サーバーの電源をオンにするには、「3 Power On」を選択します (現在オフになっている場合)。
- サーバーの電源をオンにするには、「4 Power Off」を選択します (現在オンになっている場合)。

「Boot」メニューの選択項目

「Boot」メニューにある選択項目を使用して、次のことを実行できます。

- サーバーのオペレーティング・システムをシャットダウンしてから、サーバーを再始動する
- まずオペレーティング・システムのシャットダウンを実行せず、サーバーを即時に再始動する
- Netfinity システム管理プロセッサを再始動する

これらの機能にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 端末プログラムを使用して、Netfinity システム管理プロセッサのモデムとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理プロセッサにログインします。

Netfinity システム管理プロセッサとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが出ます。前もって Netfinity システム管理プロセッサに対して使用するよう構成されている、ユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次の 2 つのユーザー名とパスワードの組み合わせのうち、どちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードには、大文字小文字の区別があります。すべて大文字を使用する必要があり、また PASSWORD 中の“0”は数字のゼロです。

- Netfinity システム管理プロセッサと Netfinity Manager を使用して定義したユーザー名とパスワード

重要

セキュリティのために、Netfinity システム管理プロセッサを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、9ページの『構成設定』を参照してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理プロセッサにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video

3. 「7 Boot」を選択します。

次の「Boot」メニューが表示されます。

1 Reboot w/OS Shutdown
2 Reboot immediately
3 Restart SP

4. 「Boot」メニューの項目を選択します。

- サーバーのオペレーティング・システムをシャットダウンしてから、サーバーを再始動するには、「1 Reboot w/OS Shutdown」を選択します。

- まずオペレーティング・システムをシャットダウンせず、即時にサーバーを再始動するには、「**2 Reboot immediately**」を選択します。
- Netfinity システム管理プロセッサを再始動するには、「**3 Restart SP**」を選択します。

リモート・ビデオ・モードを使用した POST の監視とアクセス

端末プログラムを使用して、POST 中に生成されたテキストをすべてリモート側から監視できます。リモート・システムが POST を完了すると、端末プログラムのウィンドウにすべての POST データが表示されます。リモート・システム上で POST を監視しているときは、ローカルのキーストロークがすべて自動的にリモート・システムにリレーされるので、POST 中にアクセスできる POST ユーティリティ（システム構成、RAID ミニ構成プログラム、診断プログラムなど）を使用できます。

リモート・ビデオ・モードを使用して、サーバーの POST の監視とアクセスを行う手順は、次のとおりです。

1. 端末プログラムを使用して、Netfinity システム管理プロセッサのモデムとの接続を確立します。
2. Netfinity システム管理プロセッサにログインします。

Netfinity システム管理プロセッサとの接続を確立すると、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが出ます。前もって Netfinity システム管理プロセッサに対して使用するよう構成されている、ユーザー名とパスワードの組み合わせを入力する必要があります。次の 2 つのユーザー名とパスワードの組み合わせのうち、どちらかを使用できます。

- デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD)

注: デフォルトのユーザー名とパスワードには、大文字小文字の区別があります。すべて大文字を使用する必要があり、また PASSWORD の中の“0”は数字のゼロです。

- Netfinity システム管理プロセッサと Netfinity Manager を使用して定義したユーザー名とパスワード

重要

セキュリティのために、Netfinity システム管理プロセッサを使用してユーザー名とパスワードを変更してください。詳しくは、9ページの『構成設定』を参照してください。

Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコードを更新した場合、デフォルトのユーザー名 (USERID) とパスワード (PASSWORD) がリセットされます。以前にこれらを変更していた場合は、再度変更する必要があります。

Netfinity システム管理プロセッサにログインすると、次のメインメニューが表示されます。

2 Monitors
3 Error Logs
4 Service Processor Configuration
5 System Services
6 System Power
7 Boot
B Remote Terminal Status
Y Disconnect Current Logon
Z Start Remote Video

3. サーバーを始動 (または再始動) します。

- リモート・サーバーの電源が現在オフになっている場合は、次の手順を実行します。
 - a. メインメニューの「**6 System Power**」を選択します。
 - b. 「System Power」メニューの「**4 Power On**」を選択します。
- サーバーの電源が現在オンになっている場合は、サーバーを再始動する必要があります。「System Power」メニューまたは「Boot」メニューにある選択項目を使用して、サーバーを数通りの方法で再始動できます。

「System Power」メニューの選択項目を使用してサーバーを再始動する手順は、次のとおりです。

- a. メインメニューの「**6 System Power**」を選択します。
- b. 「System Power」メニューの「**3 Power Off**」を選択します。
- c. サーバーの電源がオフになったら、「**4 Power On**」を選択してサーバーの電源を再度オンにします。

「Boot」メニューの選択項目を使用してサーバーを再始動する手順は、次のとおりです。

- a. メインメニューの「**7 Boot**」を選択します。
- b. 「**1 Reboot w/OS Shutdown**」または「**2 Reboot immediately**」のどちらかを選択して、サーバーを再始動します。

注: 「System Power」メニューと「Boot」メニューについては、37ページの『「System Power」メニューの選択項目』、および38ページの『「Boot」メニューの選択項目』を参照してください。

4. サーバーを再始動した後、メインメニューに戻って、「**Z Start Remote Video**」を選択します。

Netfinity システム管理プロセッサ上でリモート・ビデオ・モードを開始した後、POST 中に生成されたテキストはすべて端末ウィンドウに送信されます。端末は完全にアクティブなリモート・セッションとしても機能するので、ユーザーはキーボード・コマンドを入力してリモート・サーバーに送信できます。このように、キー・コマンドやキーの組み合わせを入力して、POST の操作とユーティリティー (システム・セットアップや RAID ミニ構成プログラムなど) にアクセスできます。

リモート・ビデオ・モードの使用を終了したら、Ctrl+R、Ctrl+E、Ctrl+T を順に押します。この操作によって、リモート・ビデオ・モードを終了して、メインメニューに戻ります。

付録A. 動的接続マネージャー

動的接続マネージャーは、Netfinity Manager に付属のシリアル接続制御サービスを更新、拡張したバージョンです。このシリアル接続制御の拡張バージョンは、インストール時にシステム管理オプションを選択した場合にだけ、Netfinity Manager 5.2.1 以降とともにインストールされます。Netfinity Manager 5.2.1 以降のインストール時にシステム管理インストール・オプションを選択しなかった場合は、動的接続マネージャーの代わりにシリアル接続制御がインストールされます。シリアル接続制御の詳細については、*Netfinity Manager User's Guide* のシリアル接続制御の章を参照してください。

注: Netfinity Manager のインストール時にシステム管理オプションを選択しなかった場合は、動的接続マネージャーを使用できるようにするには、Netfinity Manager を再インストールして、システム管理オプションを選択する必要があります。

シリアル接続制御と同様、動的接続マネージャーを使用すると、システムに装備されているモデムを使用して、別の Netfinity Manager システムにリモート・アクセスできます。正しく構成を行えば、モデムだけを使用して、LAN に接続している場合とまったく同じように他の Netfinity Manager システムにアクセスし、システムを管理できます。動的接続マネージャーを使用して Netfinity Manager を実行しているシステムと接続した場合は、リモート・システムのリモート・システム・マネージャーを使用して、そのシステムをパススルーしてリモート・システム・ネットワーク上にある他の Netfinity Manager システムを管理できます。

また、システムが LAN に接続されていない場合は、Netfinity Manager 動的接続マネージャー・サービスを使用すれば、任意の Netfinity Manager アプリケーションを使用してシステムを管理できます。システム管理者がオフィスに出向いたり、作業を中断したりする必要はありません。

動的接続マネージャーを使用すると、シリアル接続制御サービスが提供する機能のほかに、システム管理 PCI アダプターまたはプロセッサに組み込まれた、TCP/IP またはシステム管理 (ASM) 相互接続ネットワーク・サブシステムに直接リンクできます。このリンクが確立されたら、システム管理サービスを使用して、システム管理 PCI アダプターまたはプロセッサのアクセス、監視、構成、および管理を直接行うことができます。アダプターまたはプロセッサを内蔵しているサーバーが現在オンになっているかどうか、あるいは動作しているかどうかは関係ありません。

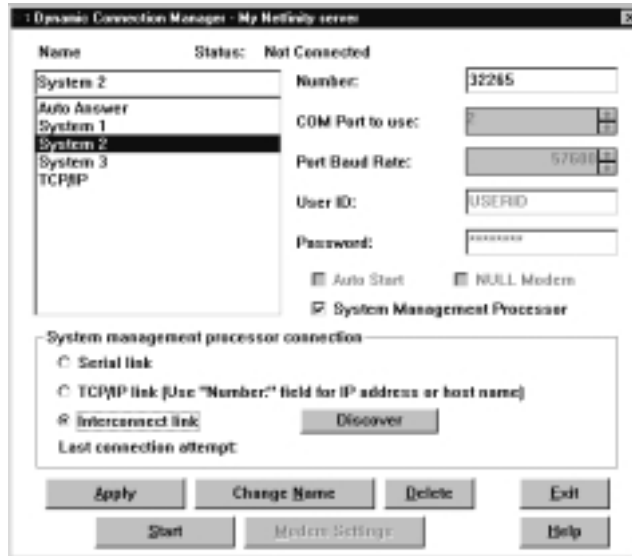


図 12. 動的接続マネージャー

注:

1. 動的接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用するには、少なくとも 9600 ボーをサポートするモデムをシステムに正しく取り付けて構成する必要があります。
2. 動的接続マネージャーの TCP/IP リンク機能を使用するには、システムが TCP/IP ネットワークに接続されている必要があり、また TCP/IP プロトコル・ドライバーを使用可能にする必要があります (インストール時に使用可能になります。ドライバーが現在使用可能になっていない場合は、ネットワーク・ドライバー構成を使用して使用可能にしてください)。
3. 動的接続マネージャーの ASM 相互接続リンク機能を使用するには、システムがシステム管理 (ASM) 相互接続ネットワークに接続されている必要があります。

注: 動的接続マネージャーを使用すると、シリアル接続または TCP/IP 接続を使用して、リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサに接続できます。さらに、ASM 相互接続機能を使用して、リモート・システムの ASM 相互接続ネットワーク上にある、他のシステム管理アダプターまたはプロセッサに「パススルー」して接続できます。詳細については、52ページの『システム管理相互接続のパススルー管理』を参照してください。

モデム構成

動的接続マネージャーのシリアル・リンク機能を使用して、リモート・システムに接続したり、ユーザー自身のシステムにリモート・アクセスできるようにしたりするには、まずモデムが正しく構成されていることを確認する必要があります。

システムのモデムを構成する手順は、次のとおりです。

1. 「Dynamic Connection Manager」ウィンドウの「**Modem Settings**」をクリックします。
「Modem Settings」ウィンドウ (45ページの図13 を参照) が開きます。
2. スピン・ボタンを使用して、構成するモデムの COM ポート を選択します。

「COM Port to configure」フィールドの横にあるスピン・ボタンを使用して、モデムの COM ポートを選択します。

3. 「Modem Name」を選択するか、新しいモデムを選択します。

「Modem Name」フィールドからシステム・モデムの名前を選択するか、新しい名前を入力します。Netfinity Manager は、数種類の一般的なモデム用の設定値が初期構成された状態で出荷されます。ただし、お使いのモデムが「Modem Name」フィールドにリストされていない場合、またはシステムに装備されているモデムの種類が分からない場合は、「Default」を選択します。「Default」の設定を使用したときにモデムが正しく機能しない場合は、52ページの『初期化文字列のガイドライン』を参照してください。

注： 初期構成済みのモデム名、または「Default」を選択すると、他のモデム構成情報が自動的に入力されます。

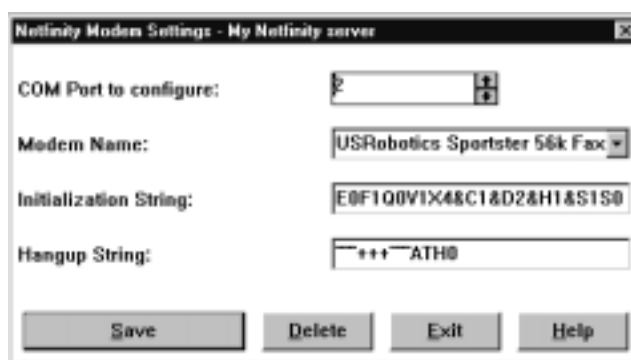


図 13. 動的接続マネージャー - 「Modem Settings」ウィンドウ

4. モデム名を入力した場合は、お使いのシステム・モデムに応じて正しい初期化文字列を入力します。

初期構成済みのモデム名を選択した場合は、このフィールドは自動的に入力されます。ただし、Netfinity Manager の出荷時にお使いのモデム用の初期構成済み設定値が指定されていない場合は、ユーザーがこのフィールドを編集する必要が生じることがあります。詳細については、52ページの『初期化文字列のガイドライン』を参照してください。

5. お使いのシステム・モデムに応じた正しいハングアップ文字列を入力します。

「Hangup string」フィールドは、電話回線への接続のクローズを指示するためにモデムに送信されるコマンドを指定します。この文字列は、ほとんどのモデムで正しく機能します。お使いのモデムがデフォルトのハングアップ文字列に正しく応答しない場合は、詳細についてモデムに付属の資料を参照してください。

6. 「Save」をクリックしてこれらの設定値を保管し、動的接続マネージャーがこのモデムを使用できるようにします。

リモート・アクセスを使用可能にする

動的接続マネージャー用にモデムを構成したら、ネットワーク管理者またはその他の許可ユーザーに、システムへのアクセスを許可する必要があります。その後、許可ユーザーは動的接続マネージャーを使用してシステムにアクセスできるようになります。システムへのアクセスを許可する手順は、次のとおりです。

1. 「Name」選択リストの「Auto Answer」をクリックして、動的接続マネージャーを自動応答モードに設定します。
2. セキュリティー・マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンする際に入力する、ユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成します。

動的接続マネージャーを自動応答モードに設定する手順は、次のとおりです。

1. Netfinity Manager 動的接続マネージャー・サービスを開始します。
2. 動的接続マネージャーの「Name」フィールドで、「Auto Answer」をクリックします。

自動応答の設定により、動的接続マネージャー・サービスはモデムを経由した着信電話呼び出しに自動応答できるようになります。電話に応答すると、サービスは呼び出し元システムとのリンクの確立を試みます。

3. ヌル・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「Null Modem」をクリックします。

注: リモート・システムがこのシステムとの通信にヌル・モデム接続を使用する場合は、「Null Modem」チェック・ボックスにチェック・マークを付ける必要があります。

4. 動的接続マネージャーのユーザー ID とパスワードを設定します。

セキュリティ・マネージャー・サービスを使用して、許可ユーザーがシステムにログオンする際に入力する、ユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成します。リモート・ユーザーがこのシステムのモデムにダイヤルするとき、このシステムの Netfinity Manager サービスにアクセスするには、リモート・ユーザーはユーザー ID とパスワードを入力する必要があります。Netfinity Manager のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成する方法については、*Netfinity Manager User's Guide* (ServerGuide に含まれる) のセキュリティ・マネージャーの章を参照してください。

5. 「Start」をクリックします。

「Start」をクリックすると、動的接続マネージャー・サービスは着呼の待機を開始します。「Dynamic Connection Manager」ウィンドウの状況フィールドに“Waiting for call”と表示されたら、「Exit」をクリックして構いません。動的接続マネージャーは、バックグラウンドで着呼の待機を継続します。

注: Netfinity Manager の始動時に動的接続マネージャー・サービスを自動的に始動し、着呼の待機を開始するようにしたい場合は、「Auto Answer」をクリックし、「Auto Start」チェック・ボックスをクリックします。

動的接続マネージャー・サービス用にシステムのモデムを構成したら、他の Netfinity Manager システムにリモート・アクセスできるようにするシリアル接続エントリーを作成できます。

動的接続マネージャー・エントリーの作成

動的接続マネージャー・エントリーを追加するには、「Dynamic Connection Manager」ウィンドウの適切なフィールドに入力します。次の 2 種類のエントリーを作成できます。

- Netfinity Manager 接続

動的接続マネージャーとモデムを使用して、Netfinity Manager を実行するリモート・システム上の動的接続マネージャー・サービス、またはシリアル接続制御サービスとのシリアル接続を確立するように、Netfinity Manager 接続を作成します。この接続を確立すれば、Netfinity Manager サービスを使用して、ユーザーのネットワークに接続されている場合と同じようにリモート・システムをリモート側から監視し、管理できます。

- システム管理プロセッサ接続

動的接続マネージャーを使用して、サーバーの 1 つに取り付けられた PC Server システム管理アダプター、Netfinity システム管理プロセッサ、または Netfinity システム管理 PCI アダプターに直接接続するように、Netfinity Manager 接続を作成します。動的接続マネージャーを使用してリモートのシステム管理ハードウェアに直接リンクする場合は、システム管理サービスを使用してシステム管理ハードウェアの監視と管理を行うために、Netfinity Manager がリモート・サーバー上で実行されている必要はありません。

注: システム管理プロセッサ接続を使用する場合は、システム管理サービスだけが使用できます。リモート・システム上で他の Netfinity Manager サービスは使用できません。

Netfinity Manager 接続エントリーの作成

動的接続マネージャーの Netfinity Manager 接続エントリーを新しく追加する手順は、次のとおりです。

1. エントリーに名前を割り当てます。

「Name」フィールドに、個々のシステム用に作成する動的接続マネージャー・エントリーの固有な名前を入力します。たとえば、動的接続マネージャーのアクセス用に構成しているシステムのシステム名を入力します。ただし、「Name」エントリーは単に説明のためのもので、何でも構いません。

2. リモート・システムの電話番号を入力します。

「Number」フィールドに、アクセスするシステムの電話番号を入力します。市外局番と、このシステムに接続するために必要な接頭部があればそれを必ず含めてください。たとえば、一部の電話システムでは、外線につなぐために 9 をダイヤルする必要があります。

注: 電話番号には括弧またはハイフンを使用しないでください。

3. COM ポートを割り当てます。

リモート・システムにアクセスするために使用するモデムの COM ポートを選択します。

4. モデムの通信速度を指定します。

リモート・システムにアクセスするために使用するモデムの通信速度を選択します。

注:

- a. 頻繁にシリアル接続に障害が起こる場合は、通信速度を下げてください。通信速度が高いほど、回線ノイズの影響を受けやすくなります。
 - b. パフォーマンスを最大にするために、最大モデム速度と等しいかそれ以上の通信速度を選択します。
5. リモート・システムにログオンするためのユーザー ID を入力します。
- リモート・システムへのアクセスを可能にするユーザー ID を入力します。これは、リモート・システムのセキュリティー・マネージャー内でアクセスを許可するように構成されたユーザー ID とパスワードの組み合わせと一致している必要があります。
6. リモート・システムにログオンするためのパスワードを入力します。
- リモート・システムへのアクセスを可能にするパスワードを入力します。これは、リモート・システムのセキュリティー・マネージャー内でアクセスを許可するように構成されたユーザー ID とパスワードの組み合わせと一致している必要があります。
7. nul・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「Null Modem」をクリックします。
8. 動的接続マネージャー・エントリーを保管します。
- 「Apply」をクリックして、このエントリーを保管します。

システム管理プロセッサ接続エントリーの作成

動的接続マネージャーのシステム管理プロセッサ接続エントリーを新しく追加する手順は、次のとおりです。

1. 「System Management Processor」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

このチェック・ボックスにチェック・マークを付けると、「System management processor connection」ボタン・グループの選択項目が使用可能になります。

2. 「System management processor connection」タイプを選択します。

次の 3 つの接続タイプから 1 つ選択できます。

- シリアル・リンク

リモートの PC Server システム管理アダプター、Netfinity 拡張システム管理 PCI アダプター、または Netfinity システム管理プロセッサ用に構成されたモデムに、ユーザーのモデムを使用して直接接続するには、「System management processor connection」ボタン・グループから「Serial link」を選択します。

- TCP/IP リンク

TCP/IP ネットワーク接続を使用して、ネットワークに接続された Netfinity システム管理 PCI アダプターに組み込まれている TCP/IP サブシステムに直接接続するには、「System management processor connection」ボタン・グループから「TCP/IP link」を選択します。

注: TCP/IP リンクは、Netfinity システム管理 PCI アダプターを使用している場合だけ使用できます。

- 相互接続リンク

ASM 相互接続ネットワーク上の Netfinity システム管理 PCI アダプターに接続された、システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスするには、「**System management processor connection**」ボタン・グループから「**Interconnect link**」を選択します。ASM 相互接続を使用するために、追加の構成を行う必要はありません。ASM 相互接続機能を使用している場合は、詳細について 51 ページの『リモート・システムへのアクセス (システム管理相互接続リンク)』を参照してください。

3. エントリーに名前を割り当てます。

「**Name**」フィールドに、個々のシステム管理アダプターまたはプロセッサ用に作成する動的接続マネージャー・エントリーの固有な名前を入力します。たとえば、そのアダプターまたはプロセッサを装備しているシステムのシステム名を使用します。ただし、「**Name**」エントリーは単に説明のためのもので、何でも構いません。

4. リモート・システムのアクセス番号を入力します。

「**Number**」フィールドに、アクセスするシステム管理アダプターまたはプロセッサの電話番号（「**System Management processor connection**」ボタン・グループから「**Serial link**」を選択した場合）、または TCP/IP アドレス（「**System Management processor connection**」ボタン・グループから「**TCP/IP link**」を選択した場合）を入力します。シリアル・リンクを構成している場合は、市外局番と、このアダプターまたはプロセッサに接続するために必要な接頭部があればそれを必ず含めてください。たとえば、一部の電話システムでは、外線につなぐために 9 をダイヤルする必要があります。

注： 電話番号には括弧またはハイフンを使用しないでください。

5. COM ポートを割り当てます。

システム管理アダプターまたはプロセッサにアクセスするために使用するモデム、またはネットワーク・アダプターの COM ポートを、「**COM Port to use**」フィールドから選択します。

6. ポートの通信速度を指定します。

シリアル・リンクを構成している場合は、リモート・システムにアクセスするために使用するモデムの通信速度を指定します。

注：

- a. 頻繁にシリアル接続に障害が起こる場合は、通信速度を下げてください。通信速度が高いほど、回線ノイズの影響を受けやすくなります。
- b. パフォーマンスを最大にするために、最大モデム速度と等しいかそれ以上の通信速度を選択します。

7. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを可能にするユーザー ID を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するように構成された (システム管理サービスを使用して) ユーザー ID とパスワードの組み合わせと一致している必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成する方法については、8 ページの『シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理』を参照してください。

8. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを可能にするパスワードを入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するように構成された (システム管理サービスを使用して) ユーザー ID とパスワードの組み合わせと一致している必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成する方法については、8ページの『シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理』を参照してください。

9. スル・モデム接続を使用して接続を確立する場合は、「Null Modem」をクリックします。
10. 動的接続マネージャー・エントリーを保管します。

「Apply」をクリックして、このエントリーを保管します。

リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)

動的接続マネージャー・エントリーを作成したら、リモート・システムにアクセスできます。

リモート・システムには、「Dynamic Connection Manager」ウィンドウ (44ページの図12を参照) からアクセスします。リモート・システムにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. アクセスするリモート・システムの動的接続マネージャー・エントリーを、「Name」フィールドから選択します。
2. 「Start」をクリックして、シリアル接続プロセスを開始します。

動的接続マネージャーのプロセスを開始すると、システムはモデムまたはネットワーク・アダプターを使用して、リモート・システムへの接続を試みます。リモート・システムに接続すると、動的接続マネージャーはユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用して、リモート・システムへのアクセスを試みます。接続が成功した場合は、リモート・システム・マネージャーにリモート・システムを追加 (またはディスカバリー) できます。その後、リモート・システムがユーザーのネットワークの一部であるかのように、リモート・システムにアクセスしてシステムを管理できます。

注:

1. システム管理プロセッサ接続を作成した場合は、システム管理サービスだけを使用できます。リンクを確立したら、Netfinity Service Manager ウィンドウの「システム管理」アイコンをダブルクリックして、システム管理サービスを開始します。
2. Netfinity Manager 接続を確立するには、自動応答モードで稼動する動的接続マネージャーまたはシリアル接続制御がリモート・システムに備わっている必要があります。リモート・システムが自動応答モードになっていない場合、リモート・システムのモデムは電話呼び出しに応答しません。
3. Netfinity Manager の始動時に動的接続マネージャーを自動的に始動し、特定のリモート・システムへのアクセスを試行するようにしたい場合は、リモート・システム・エントリーを選択し、「Auto Start」チェック・ボックスをクリックします。自動的に始動するように構成できるエントリーは 1 つだけです。

リモート・システムへのアクセス (システム管理相互接続リンク)

ASM 相互接続リンクは、シリアル・リンクや TCP/IP リンクと異なり、ASM 相互接続ネットワーク上にある他のシステム管理アダプターまたはプロセッサとの接続を行う前に、追加の構成を必要としません。ASM 相互接続リンクを確立する手順は、次のとおりです。

1. 「System Management Processor」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

このチェック・ボックスにチェック・マークを付けると、「System management processor connection」ボタン・グループの選択項目が使用可能になります。

2. 「System management processor connection」ボタン・グループの「Interconnect Link」をクリックします。
3. 「Discover」ボタンをクリックして、「Discover Interconnect」ウィンドウを開きます。

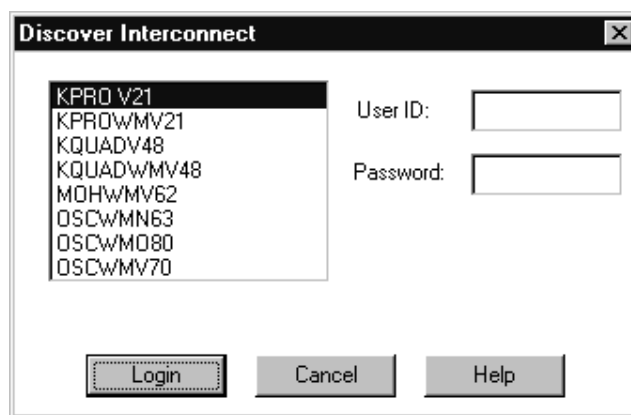


図 14. 動的接続マネージャー - 「Discover Interconnect」ウィンドウ

「Discover Interconnect」ウィンドウは、ASM 相互接続ネットワークを経由して接続されていてアクセス可能な、システム管理アダプターまたはプロセッサすべてのリストを表示します。

4. 「Discover Interconnect」ウィンドウに表示されたリストから、システム管理アダプターまたはプロセッサを選択します。
5. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのユーザー ID を入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを可能にするユーザー ID を入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するように構成された (システム管理サービスを使用して) ユーザー ID とパスワードの組み合わせと一致している必要があります。システム管理用のユーザー ID/パスワードの組み合わせを構成する方法については、8ページの『シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理』を参照してください。

6. リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサにログオンするためのパスワードを入力します。

リモートのシステム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを可能にするパスワードを入力します。これは、システム管理アダプターまたはプロセッサへのアクセスを許可するように構成された (システム管理サービスを使用して) ユーザー ID とパス

ワードの組み合わせと一致している必要があります。システム管理用のユーザー ID とパスワードの組み合わせを構成する方法については、8ページの『シリアル接続、TCP/IP 接続、または ASM 相互接続を使用したリモート管理』を参照してください。

7. 「**Login**」をクリックして、選択したシステム管理アダプターまたはプロセッサとの ASM 相互接続リンクを確立します。

システム管理相互接続のパススルー管理

動的接続マネージャーを使用して、ASM 相互接続ネットワークに接続されたシステム管理アダプターまたはプロセッサを管理できます。ユーザーのシステムと Netfinity システム管理 PCI アダプターが、管理対象のシステムと同じ ASM 相互接続に接続されていなくても構いません。パススルー ASM 相互接続リンクを確立する手順は、次のとおりです。

1. リモート ASM 相互接続ネットワークに接続された Netfinity システム管理 PCI アダプターとのシリアル・リンク、または TCP/IP リンクを構成して確立します。

シリアル・リンクまたは TCP/IP リンクを構成して確立する方法については、48ページの『システム管理プロセッサ接続エントリーの作成』、および 50ページの『リモート・システムへのアクセス (シリアル・リンクと TCP/IP リンク)』を参照してください。

2. シリアル接続または TCP/IP リンクを確立した後、「**System management processor connection**」ボタン・グループの「**Interconnect link**」をクリックして、「**Discover**」をクリックします。「Discover Interconnect」ウィンドウが開き、シリアル・リンクまたは TCP/IP リンクを使用して接続した先のリモート Netfinity システム管理 PCI アダプターが ASM 相互接続ネットワークに接続している、システム管理アダプターとプロセッサのリストが表示されます。これらのシステムのいずれかを選択して、システムにログインします。これは、そのシステムが ASM 相互接続ネットワーク上のユーザーのシステムに接続されている場合とまったく同じように行うことができます。

初期化文字列のガイドライン

ほとんどのモデムは類似した初期化文字列コードを使用しますが、モデムによって違いがあります。このため、すべてのモデムに適切な初期化文字列を提供するのは非常に困難です。場合によっては、お使いのモデムに合うように、ユーザーが独自の初期化文字列を作成する必要があります。この場合は、モデムに付属の資料を参照して、適切な初期化文字列コードを調べてください。

- 必要な初期化コード

Netfinity Manager 動的接続マネージャー・サービス用にモデムを正しく動作させるには、モデムを次のように構成する初期化文字列が必要です。

- コマンド・エコーはオフ
- オンライン文字エコーはオフ
- 結果コードは使用可能
- 文字結果コードは使用可能
- BUSY と DT の検出を行い、すべてのコードと接続メッセージを表示
- 追加するプロトコル ID - LAPM/MNP/NONE V42bis/MNP5
- 通常の CD 操作
- DTR ON-OFF ハングアップ、AA 使用不可、コマンド・モードに復帰
- CTS ハードウェア・フロー制御
- コンピューターへの受信データの RTS 制御

- 待ち行列化非破壊切断、エスケープ状態なし
- 自動応答はオフ

例: 正しい動作のために必要な設定値だけを使用した、U.S. Robotics Sportster モデム用の初期化文字列は次のとおりです。

```
E0F1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&R2&Y3S0=0
```

- 追加の初期化コード

必須の初期化コードのほかに、次の追加設定値を指定してモデムを構成することによって、Netfinity Manager 動的接続マネージャー・サービスの動作を最適化できます。

- キャリア検出までスピーカーはオン
- ソフトウェア・フロー制御は使用不可
- 自動エラー制御
- 可変データ速度

例: 必須設定値と追加設定値をすべて使用した、U.S. Robotics Sportster モデム用の初期化文字列は次のとおりです。

```
E0F1M1Q0V1X4&A3&C1&D2&H1&I0&K1&M4&N0&R2&Y3S0=0
```


付録B. システム管理ネットワークのセットアップと使用

この付録では、システム管理 (ASM) 相互接続内で機能するようにシステムを構成し、接続する方法を説明します。ASM 相互接続は、単一のバス内で 12 の独立した ASM 接続を行うことができます。システムが接続されると、システムは ASM 相互接続ネットワークを使用して、システム管理情報と資源を共有します。システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターを ASM 相互接続ネットワークに接続すると、次のことが可能です。

- 12 台までのサーバーのシステム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターを、単一の ASM 相互接続バスに接続する。
- 通信ハードウェアやネットワーク・インターフェース・アダプターを追加せずに、システム管理の資源、情報、およびアラートを複数のシステム間で共有する。
- ASM 相互接続バスに接続したシステム管理 PCI アダプターを、ASM 相互接続バスに対するイーサネットまたはトークンリングのゲートウェイとして使用して、ASM 相互接続バスに接続されたサーバーが生成したシステム管理情報をすべて、イーサネットまたはトークンリングのネットワーク上にある他のシステムに転送できるようにする。

注: トークンリング・ネットワークにシステム管理 PCI アダプターを接続するには、IBM Netfinity システム管理トークンリング・オプション (PN 36L9654) を購入する必要があります。このオプションの購入については、IBM 特約店にお問い合わせください。

他のシステムを ASM 相互接続ネットワーク・バスに接続するには、システム管理相互接続ケーブル・オプション (PN 03K9309) が必要です。このオプションの購入については、IBM 特約店にお問い合わせください。

ASM 相互接続ネットワーク・バスに接続するそれぞれのシステムにシステム管理相互接続ケーブル・オプションを取り付けたら、標準のイーサネット・ケーブルを使用してシステム同士を接続する必要があります。システムを接続する際は、セットアップと構成に関する次の考慮事項に注意してください。

- ASM 相互接続ネットワークは、リングとしてでなく、バスとしてセットアップする必要があります。サーバーが ASM 相互接続ネットワークに直列に接続されている (始点と終点がある) ことを確認してください。
- ASM 相互接続ネットワーク内のシステムを接続するイーサネット・ケーブルの全長は、300 フィートを超えてはなりません。
- ASM 相互接続ネットワーク・バスに接続された、それぞれのシステム管理 PCI アダプター、またはシステム管理プロセッサは、1 つの接続としてカウントされます。たとえば、システム管理プロセッサを備えたシステムにシステム管理 PCI アダプター・オプションを取り付けた場合、プロセッサとアダプターは ASM 相互接続を使用して互いに接続され、それぞれが ASM 相互接続ネットワーク・バス上の 1 接続としてカウントされます。

システム管理相互接続のアラート転送

ASM 相互接続ネットワークに接続されたシステム管理 PCI アダプターとシステム管理プロセッサは、資源とシステム管理情報を共有します。ここでは、アラートがどのように共有され、ASM 相互接続ネットワーク内で転送されるかを説明します。

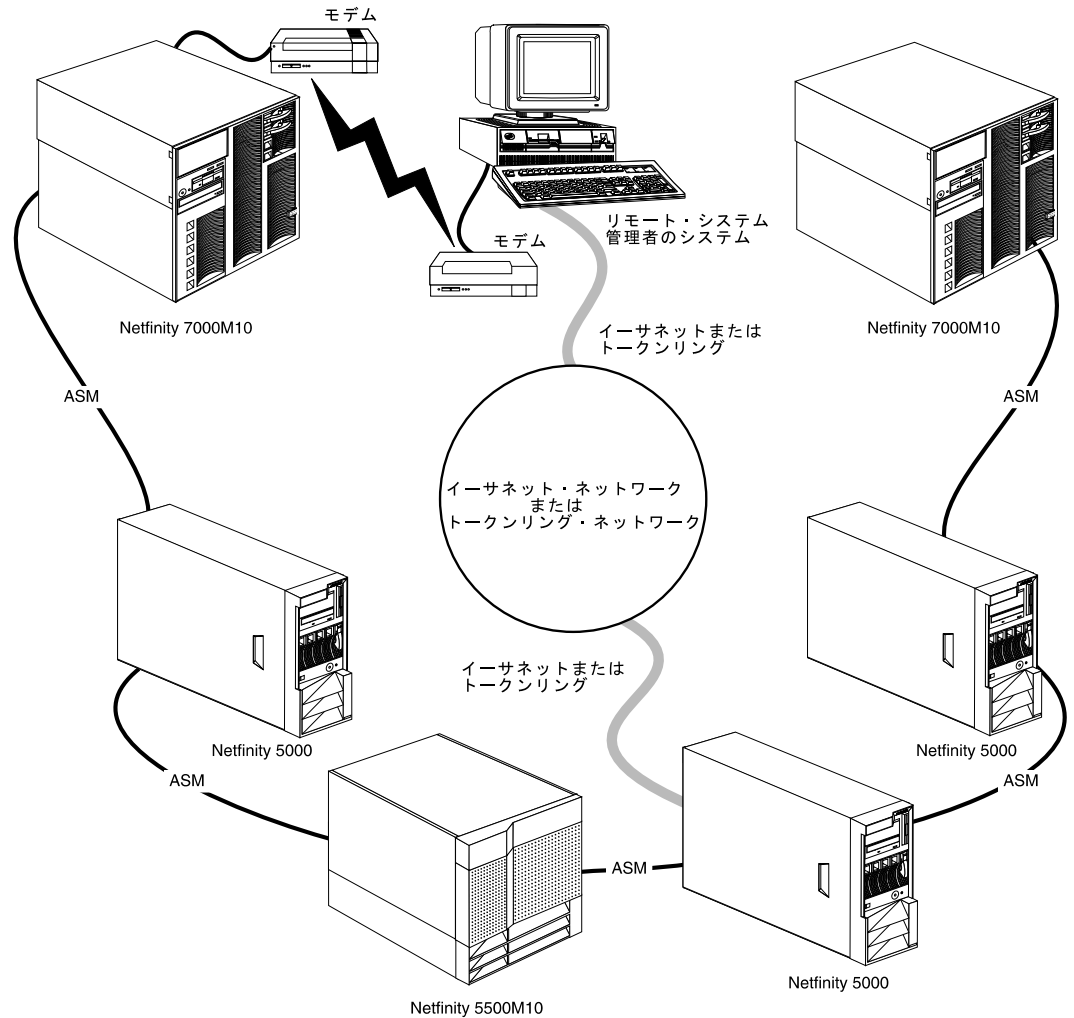
通常動作時は、ASM 相互接続ネットワーク上にあるそれぞれのシステム管理プロセッサまたは PCI アダプターは、そのネットワーク上にある他のプロセッサおよびアダプターと通信します。モデム、イーサネット、またはトークンリングの接続を備えたプロセッサまたはアダプターは、他のプロセッサとアダプターに、これらの通信資源を ASM 相互接続ネットワーク上の他のシステムが使用できるということを「通知」します。これで、これらの通信資源を ASM 相互接続ネットワーク資源として使用できるようになるので、ASM 相互接続上のシステム管理プロセッサまたは PCI アダプターは、モデムまたは IP アドレスにアラートを送信できます (モデムまたはネットワーク接続が物理的に取り付けられていなくても)。

アラートが生成されると、アラートの転送に必要な通信資源を持つ ASM 相互接続ネットワーク上のシステム管理プロセッサまたは PCI アダプターに、アラートが転送されます。ASM 相互接続ネットワーク上に要件を満たすシステムがない場合は、アラートは転送されずに廃棄されます。

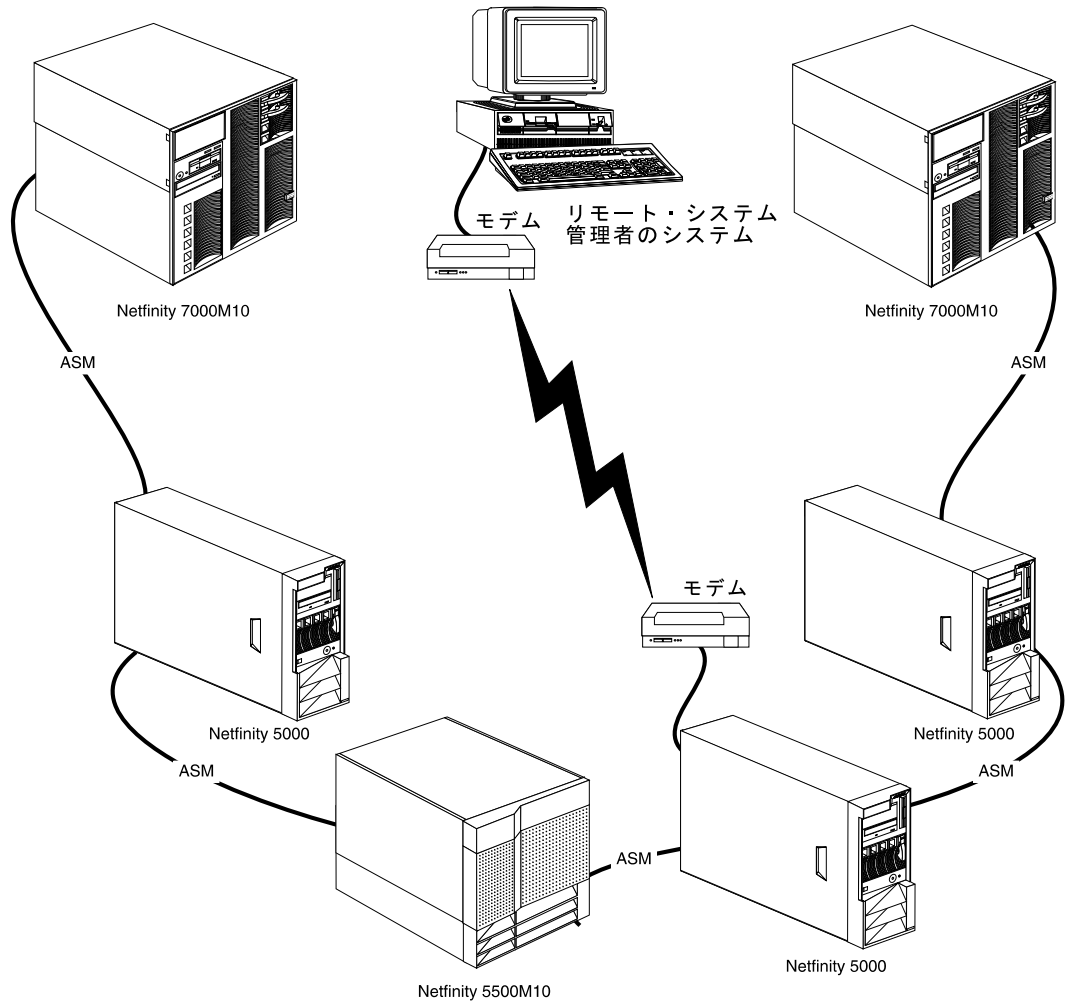
複数のモデムまたは複数のネットワーク接続が ASM 相互接続ネットワークに存在する場合は、どのシステムがアラートを受信するか、またはどのシステムがモデムとネットワーク接続を使用してアラートを転送するかを指定することはできません。アラートを送信できない別のシステム管理プロセッサまたは PCI アダプターにアラートが送信された場合 (たとえば、使用するように構成されたモデムが故障した場合や、ネットワークが宛先 IP アドレスを解決できない場合)、プロセッサまたはアダプターは、要求どおりにアラートを転送するために必要な資源を持つ ASM 相互接続ネットワーク上の別のシステムに、アラートの転送を試みます。必要な資源を持つ別のシステムがない場合、または引き続きアラートを転送できない場合は、アラートは廃棄されます。

システム管理相互接続のサンプル構成

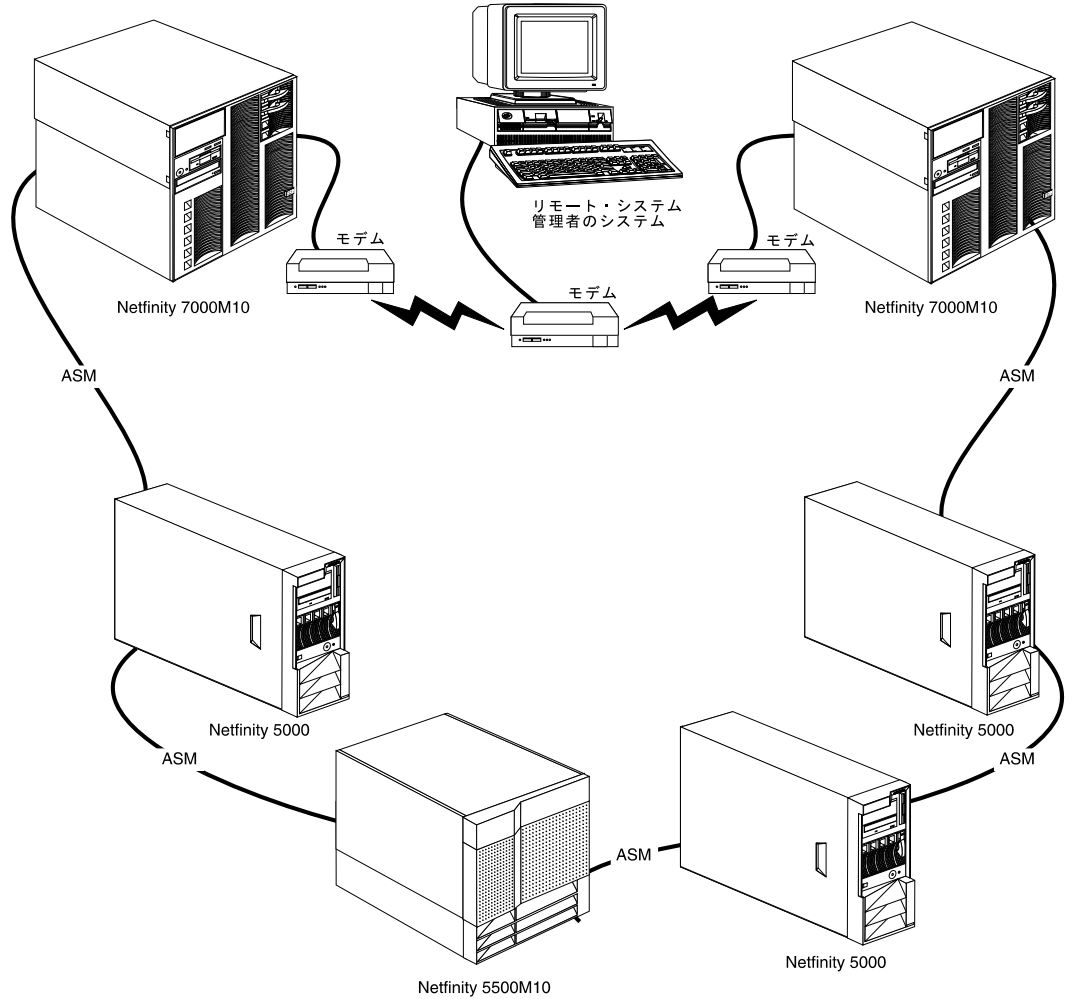
次の図は、ユーザーが使用できる ASM 相互接続ネットワークのサンプル構成を示しています。この例では、Netfinity 7000 M10 に組み込まれたシステム管理 PCI アダプターにモデムが接続され、Netfinity 5000 にシステム管理 PCI アダプター・オプションが取り付けられています。この事例では、システム管理 PCI アダプターを備えた Netfinity 5000 はネットワーク・ゲートウェイとして機能し、ASM 相互接続ネットワーク・バス内の他のシステムが生成したシステム管理データを、ネットワークに接続されたシステム管理システムに転送します。Netfinity 7000 M10 も、モデムを使用してシステム管理データを管理者に転送するように構成されており、ネットワーク障害に備えた冗長性を提供しています。



この例では、モデムは Netfinity 5000 内のシステム管理プロセッサに接続されています。
この事例では、Netfinity 5000 はモデムを使用して、ASM 相互接続ネットワーク・バス内の他のシステムが生成したシステム管理データを、リモート・システム管理者に転送します。



この例では、ASM 相互接続ネットワーク・バスの両端にある Netfinity 7000 M10 サーバーに組み込まれたシステム管理 PCI アダプターに、モデムが接続されています。ASM 相互接続ネットワーク・バスの両端にモデムを配置することで、バス内の ASM 相互接続が故障した場合にも、すべてのシステムが引き続きモデムにアクセスでき、システム管理データをリモート・システム管理者に転送できます。



索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

- アクセス
 - POST、リモート・ビデオ・モードを使用した 35, 40
- アラート 1
- アラート・ダイヤルアウト・グループ
 - Critical Enabled 23
 - Non-critical Enabled 23
 - System Enabled 24
- イベント、システム管理、構成 1
- インストール
 - デバイス・ドライバー 3
- オペレーティング・システム、サポートされる 3

〔カ行〕

- 開始
 - サーバー
 - 参照：ブート・メニュー
 - リモート・ビデオ・モード 37
 - Netfinity システム管理プロセッサ 7
 - ガイドライン、初期化文字列 18
 - カスタマー援助
 - 参照：本サーバー・ライブラリーの“Getting Help Information”
- 画面
 - 参照：メインメニュー
- 監視対象の電圧 23
- 管理、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターの 8
- 管理ポート C (COM2) 15, 18, 35
- 機能 1
- 更新
 - デバイス・ドライバー 5
 - AUTOEXEC.NCF ファイル 4
 - CONFIG.SYS ファイル 4
 - Netfinity システム管理プロセッサのマイクロコード 8, 29, 35
- 構成、システム管理イベントの 1
- 構成、自動ダイヤルアウト機能の 21
- 構成、ネットワーク設定の 19
- 構成、リモート・アラート設定の 21
- 構成情報 7, 9, 37
- 構成設定機能 14

〔サ行〕

- サービス・プロセッサ
 - 参照：Netfinity システム管理プロセッサ
- サービス・プロセッサ・マネージャー
 - 参照：Netfinity サービス・プロセッサ・マネージャー
- 再始動、システムの 38
- 作成、リモート・アラート・エントリーの 22
- サポートされるオペレーティング・システム 3
- 自己診断テスト (POST)
 - アクセス、リモート・ビデオ・モードを使用した 35
 - タイムアウト 12
 - ユーティリティ 35
- システム管理
 - 始動 7
 - 使用、シリアル接続の 8
 - 使用、ASM 相互接続の 8
 - 使用、TCP/IP 接続の 8
 - 説明 1
 - 電源オフ遅延 14
 - ポートのリファレンス 16
 - リモート POST 28
 - ローダー・タイムアウト 13
 - 「Configuration Information」ウィンドウ 9
 - 「Configuration Settings」ウィンドウ 9
 - 「Dial-In settings」グループ 11
 - 「Enabled Alerts」グループ 22
 - 「Event Log」ウィンドウ 24
 - 「Modem Settings」ウィンドウ 15
 - O/S タイムアウト 13
 - POST タイムアウト 12
 - 「Remote Alert Entry Information」グループ 22
 - 「System Identification」グループ 10
 - 「System Management Processor Clock」グループ 12
 - 「System Operational Parameters」ウィンドウ 25
 - 「System Power Control」ウィンドウ 26
 - 参照：Netfinity システム管理プロセッサ
- システム管理イベントの構成 1
- システム状況情報 36
- システム・サービス 37
- 事前障害分析 (PFA) 24
- 重要プロダクト・データ (VPD) 37
- 使用
 - リモート・ビデオ・モード 35, 40
 - Netfinity システム管理プロセッサ
 - Netfinity Manager と併用 1
 - Netfinity Manager を使用しない 35
 - Netfinity Manager 1

使用、シリアル接続の 8
使用、ASM 相互接続の 8
使用、TCP/IP 接続の 8
初期化文字列のガイドライン 18, 52
シリアル管理 45, 46, 50
シリアル接続、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 8
シリアル・ポート A (COM1) 15, 18, 35
資料
製品
説明 7
セキュリティ手順
参照：パスワード
接続、Netfinity システム管理プロセッサへの 35
切断、Netfinity システム管理プロセッサセッションからの 36
選択、ポートの 16

〔タ行〕

タイムアウト、ローダー 13
タイムアウト、O/S 13
タイムアウト、post 12
端末プログラム 35
通信速度
ポート 9
モデム速度 15
ディスクット、デバイス・ドライバー 3
テクニカル・サポート
参照：カスタマー援助
テクニカル・ディレクター、資料
参照：電話番号、IBM
デバイス・ドライバー
インストール手順 3
更新 5
情報 7, 9
ディスクット 3
名前 3
デフォルトのユーザー名とパスワード 36
電圧調節器モジュール (VRM) 23, 25
電圧要件 23, 25
電源オフ遅延 14
転送、アラートの 24
電話番号
参照：電話番号、IBM
電話番号、IBM
動的接続マネージャー
アクセス、リモート・システムへの 46
アクセス、リモート・システムへの (シリアル・リンクと TCP/IP リンク) 50
アクセス、リモート・システムへの (ASM 相互接続リンク) 51
使用可能にする、リモート・アクセス 45

動的接続マネージャー (続き)
初期化文字列のガイドライン 52
シリアル接続制御エントリ、作成 47, 48
モデム構成 44
リモート・アクセス 46, 50, 51
特記事項
ドライバー、デバイス
参照：デバイス・ドライバー

〔ナ行〕

名前、デバイス・ドライバー 3
ネットワーク設定 19

〔ハ行〕

パーツ番号
パススルー管理 52
パスワード
デフォルト 36
要件 35
必要なデバイス・ドライバー 3
ビデオ・モード、リモート 35, 37, 40
表示、システム情報の 36
ファイル、デバイス・ドライバー 3
複数のダイヤルアウト 21
フリーダイヤル番号
参照：カスタマー援助
ヘルプ
参照：カスタマー援助
変更
ユーザー名とパスワード 35, 38
ポート、システム管理 PCI アダプターで使用できる 17
ポート、システム管理プロセッサで使用できる 16
ポート、システム管理プロセッサとシステム管理 PCI アダプターで使用できる 17
ポート通信速度 9
ポートのリファレンス 16

〔マ行〕

マイクロコード
更新 8, 29, 35
RAM 7, 9, 35
ROM 7, 9, 35
メインメニュー 36
メニュー
情報 36
メイン 36
Boot 39
System Power 37
モデム 15, 35

モデム構成 44
戻る、メインメニューに 36

〔ヤ行〕

ユーザー名 35, 36
ユーティリティ・プログラム
POST 35

〔ラ行〕

リモート機能 35
リモート端末状況 37
リモート・アラート設定 21
リモート・ビデオ・モード 35, 37, 40
リモート・モニター 2
ローダー・タイムアウト 13
ログイン、Netfinity システム管理プロセッサへの 35

A

ASM 相互接続、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 8
AUTOEXEC.NCF ファイル、更新 4

B

「Boot」メニュー 39

C

「Cancel」ボタン 14
CONFIG.SYS ファイル、更新 4
「Critical Enabled Alerts」グループ 23

D

「Dialing Settings」グループ 17
「Dial-In settings」グループ 11

E

「Enabled Alerts」グループ 22

I

IBM サービス・センター
参照：電話番号、IBM

N

Netfinity アラート 1

Netfinity サービス・プロセッサ・マネージャー
説明 1, 7, 35

デバイス・ドライバー 3

Netfinity システム管理プロセッサ

切断、セッションからの 36

端末プログラムによるアクセス 35

デバイス・ドライバー 3

マイクロコード、更新 29

リモート・ビデオ・モード 35, 37, 40

「Boot」メニュー 39

Netfinity Manager と併用 1

Netfinity Manager を使用しない場合の使用 35

「System Power」メニュー 37

「Non-critical Enabled Alerts」グループ 23

Novell NetWare デバイス・ドライバーのインストール 3

Novell NetWare デバイス・ドライバー名 3

O

OS/2 デバイス・ドライバーのインストール 3

OS/2 デバイス・ドライバー名 3

O/S タイムアウト 13

P

「Port Configuration」グループ 15

POST

参照：自己診断テスト (POST)

R

RAM (ランダム・アクセス・メモリー)

マイクロコード 7, 9, 35

「Refresh」ボタン 14

「Remote Alert Entry Information」グループ 22

「Reset」ボタン 14

ROM (読み取り専用メモリー)

マイクロコード 7, 9, 35

S

「System Enabled Alerts」グループ 24

「System Identification」グループ 10

「System Management Processor Clock」グループ 12

「System Operational Parameters」ウィンドウ 25

「System Power」メニュー 37

T

TCP/IP 接続、リモートの Netfinity システム管理 PCI アダプターへの 8

W

Windows NT デバイス・ドライバーのインストール 3

Windows NT デバイス・ドライバー名 3

数字

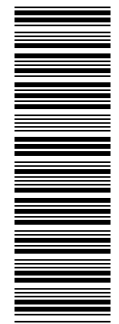
1-800 telephone assistance

参照：カスタマー援助



部品番号: 46L3496

Printed in Japan



46L3496

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6922-00